

# 平成 27 年度 教育改善報告書

— 効果的かつ効率的な教育活動を目指した点検評価 —

平成 28 年 4 月

国立長野高専  
教育改善委員会

# 平成 27 年度 教育改善報告書 目 次

1. 平成 27 年度教育改善委員会の活動方針	1
1-1 目標	
1-2 点検業務の流れ	
1-3 課題の分類、改善提案	
1-4 今年度の主な活動内容	
2. 平成 27 年度 各種委員会の活動状況の点検結果	5
1. 教務委員会	
2. 学生支援委員会	
3. 寮務委員会	
4. 専攻科運営委員会	
5. 研究支援委員会	
6. 広報企画室	
7. 国際交流センター	
8. 教育改善委員会	
9. 第三者評価対応委員会	
3. 平成 27 年度における各種点検報告	21
3-1 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査より 改善内容の検討と各部署への依頼	
3-2 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検	
3-3 学生との意見交換会に関する点検	
3-4 平成 26 年度参与会でも出された改善点の整理	
3-5 実施済研修会の効果の点検およびその改善	
3-6 エビデンス保管の電子化の改善および有効活用の検討	
4. 平成 27 年度 FD 研修会実施報告	31
4-1 平成 27 年 第 1 回 FD 研修会 (6 月 10 日) 「科研費獲得の方法とコツ」 久留米大学分子生命研科学研究所 教授 児島 将康 氏	
4-2 平成 27 年 第 2 回 FD 研修会 (9 月 18 日) アクティブラーニングの実践に向けて「学生参加を促す質問技術」 株式会社 ICC ラーニング 鹿野晴夫 氏	
4-3 平成 27 年 第 3 回 FD 研修会 (12 月 4 日) K O S E N 発 ” イノベーター・ジャパン ” プロジェクト 「高専卒業生キャリア調査」結果について 国立教育政策研究所 高等教育研究部総括研究官 (当プロジェクト高専研究調査委員) 濱 中 義 隆 氏	
5. 教務委員会における改善報告	37
5-1 教育課程の改善	
5-2 学習教育目標達成度自己評価シートの改善	
6. 平成 28 年度の活動に向けた各種委員会等への提言	46

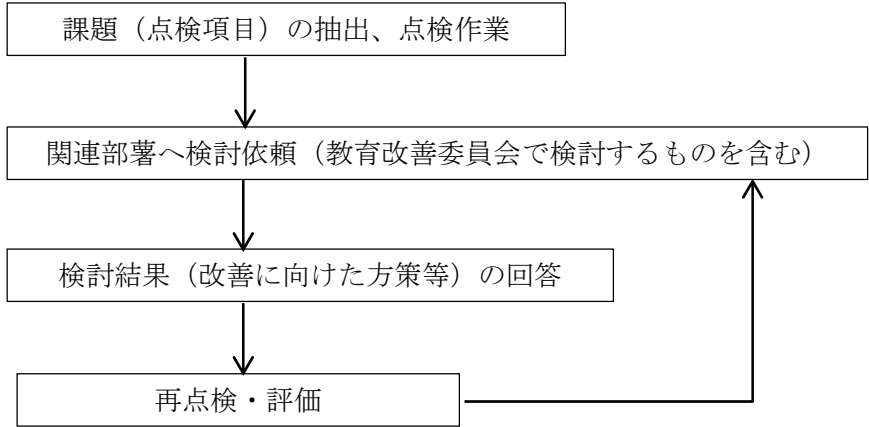
## 付録

- 付録 1 平成 26 年度学習・教育目標の学生の自己達成度に関する調査報告書
- 付録 2 平成 27 年度学生会役員との意見交換会 議事録
- 付録 3 専攻科生意見交換会開催報告
- 付録 4 第 11 回長野工業高等専門学校参与会概要
- 付録 5 平成 27 年度 第 1 回 FD 研修会 講演資料 (グループウェアのリンク)
- 付録 6 平成 27 年度 教育改善委員会 議事概要

1. 目 標

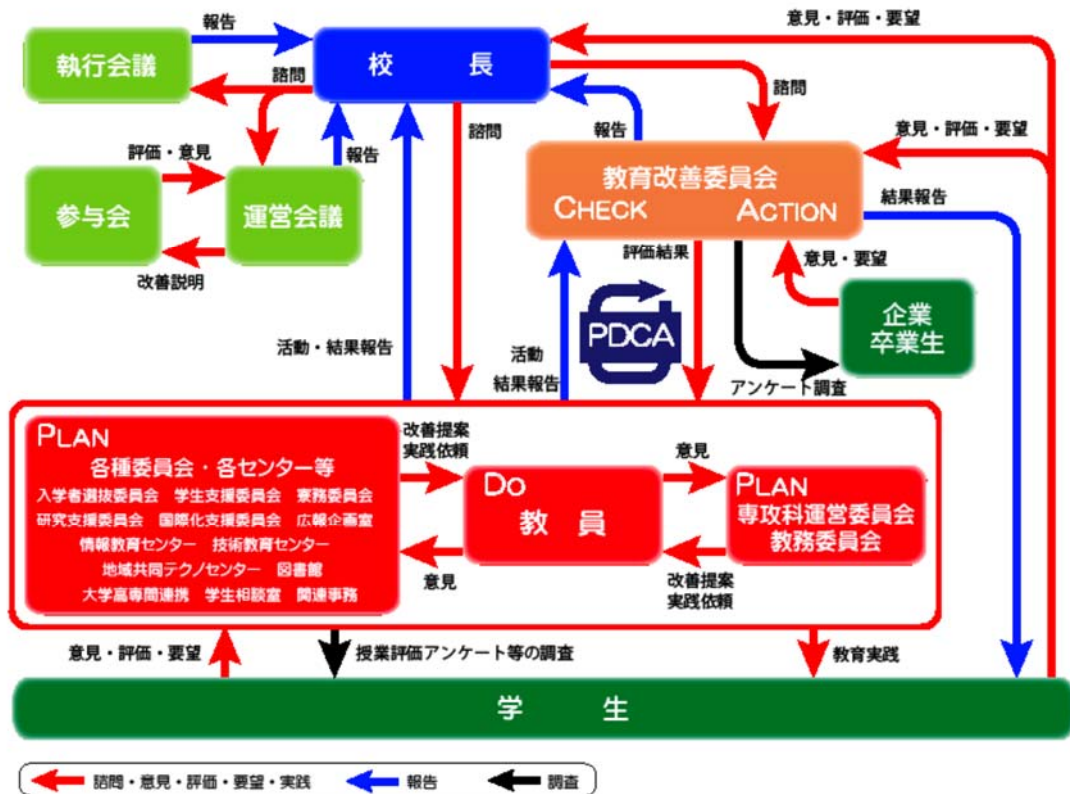
本校の教育システムを点検評価し、また教育水準を向上させるための取り組み(FD) を推進し、本校の教育改善に努める。特に PDCA サイクルの A(Action)を重視し、教育改善として次のサイクルにつながる活動を推進する。

2. 点検業務の流れ (Check)



3. 課題の分類、改善提案 (Action)→ (Next Plan)

- (1) 各種委員会等の活動状況を点検した後に整理された課題
- (2) FD 研修会での結果を分析した後に整理された課題
- (3) 重点項目として教育改善委員会で取り上げた課題
- (4) アンケート調査の分析から得られた課題
- (5) 外部評価で指摘された課題
- (6) 教員、学生、保護者等から指摘された課題



#### 4. 今年度の主な活動内容

- ◎ (1) 平成 27 年度各種委員会の活動状況の点検
  - 【各種委員会は、教務、専攻科運営、研究支援、学生支援、寮務、広報企画、国際交流センター、教育改善、第 3 者評価対応 の 9 委員会とする。】
  - ・ 平成 26 年度教育改善委員会より提言した課題の検討・改善状況を点検する。  
(平成 26 年度教育改善報告書を参照)
  - ・ 平成 27 年度当初に提示された計画に基づいて行った活動内容を点検する。
  - ・ 平成 28 年度の活動に向けた課題を整理し提言する。
- ◎ (2) 第Ⅱ期中期目標・計画の点検
  - ・ 平成 26 年度に自己点検評価報告書（第Ⅱ期中期目標・計画の最終報告）が発行された。中期目標・計画の点検方法の確立と実際の第Ⅱ期の点検作業を行う。  
なお、第Ⅲ期中期目標・計画は機構で作成済、本校では年度計画のみ作成した。
- ◎ (3) 授業改善システムの評価と点検
  - ・ 授業改善用チェック・提言シートに基づいて作業を行う。
  - ・ 当システムの評価・点検を行う。
- ◎ (4) 学習・教育目標の達成度（本科 5 年）に関する調査の点検および自己評価シート（学年別 学習・教育目標の達成度）に関する改善方法の点検
  - ・ 平成 26 年度本科 1 年～5 年生は新システムを導入した。その調査方法および調査報告の点検および評価を行う。
- ◎ (5) 学生との意見交換会に関する点検
  - ・ 平成 27 年度開催の意見交換会について点検および評価を行う。
- ◎ (6) 平成 26 年度参与会で出された意見に基づいた改善点の整理
  - ・ 平成 26 年度の参与会（6 月開催）の点検と提言
- ◎ (7) 卒業生・企業向けアンケート調査結果からの改善点を検討し各部署へ改善点を依頼  
教育改善に向けた作業計画（申し合わせ事項）【( ) は前回の年度】
  - 1 年目（平成 26 (21) 年度）：アンケート調査の実施
  - 2 年目（平成 27 (22) 年度）：改善内容の検討と各部署への依頼
  - 3 年目（平成 28 (23) 年度）：改善内容の実施
  - 4 年目（平成 29 (24) 年度）：改善内容を含めた教育システムの評価
  - 5 年目（平成 30 (25) 年度）：特に申し合わせにない。
  - 6 年目（平成 31 (26) 年度）：卒業生・企業向けアンケート調査の実施
- ◎ (8) 実施済研修会の効果の点検およびその改善（今後どうするか？）
  - ・ 平成 26 年度 第 2 回 FD 研修会は、その場でアンケート調査を実施し報告した。
  - ・ 平成 27 年度は、どうするか検討する。
- ◎ (9) FD 研修会の企画・開催および報告書の作成： 年 2 回開催を予定
  - 第 1 回 FD：6 月 10 日（水）実施  
講師：久留米大学分子生命研科学研究所 教授 児島 将康 先生  
テーマ：「科研費獲得の方法とコツ」
  - 第 2 回 FD：\_\_\_ 月予定（未定）  
学生相談室と協力して、低学年の学生指導（クラス運営、生活指導）の研修会

- ◎ (10) エビデンス保管の電子化の改善
- ◎ (11) エビデンスの有効活用の検討
- ◎ (12) エビデンス収集・保管の改善について
  - ・ 表紙等書式の改善 【(H27版)をグループウェアにアップする】
  - ・ 教育改善委員会ワーキンググループ（チーフ：大矢委員）が担当する。
  - ・ エビデンスの処分に関する対応も行う。
- ◎ (13) 試験問題レベルの保証確認 → 結果は学生課で保管
  - ・ 年2回実施（前期10月、後期3月）
  - ・ 各学科の保証確認作業は各学科の教育改善委員会委員が行う。
- ◎ (14) 各部署への検討依頼、回答の集約
- ◎ (15) メール目安箱への対応（学生への周知を5月下旬に実施）
- ◎ (16) 平成27年度版教育改善報告書の編集・発行

一昨年の実施事項であるが、今年の活動計画からは外す。

- ◎ 教育改善委員会の広報作業
- ◎ 各学科科会議事録の保管方法の検討（例：グループウェアの利用）

#### 委員会予定

- 第1回 5月： 方針、業務分担、エビデンス収集
- 第2回 7月： 中期目標・計画の点検、参与会からの改善点  
実施済研修会の点検、エビデンス保管の電子化の改善、  
授業改善システムの実施の依頼
- 第3回 9月： 授業改善システムの実施報告  
学習・教育目標の達成度に関する調査の点検と改善  
卒業生アンケート調査結果からの改善点  
エビデンスの有効活用の検討
- 第4回 11月： 試験問題レベル保証の確認（前期分）、各種点検の報告
- 第5回 1月： 教育改善報告書作成依頼、各種点検の報告
- 第6回 3月： 教育改善報告書のまとめ  
(委員会の活動状況点検、学生との意見交換会を含む)、  
試験問題レベル保証の確認（後期分）
- その他 メール： FD研修会の実施について  
試験問題レベルの保証（作業依頼）

平成 27 年度教育改善委員会業務分担

	担当項目	鈴木	堀内	羽田	大矢	古本	内山	山崎	事務	備考
1	平成 27 年度各種委員会の活動状況の点検	◎改善 第 3 者	専攻科	教務	広報	研究支援 寮務	学生支援	国際交流	○	3 月上旬
2	第 II 期中期目標・計画の点検	◎							○	7 月検討
3	授業改善システムの評価と点検（作業含む）	◎ （電気）	○ （制御）	○ （機械）	○ （情報）	○ （環境）	○ （一般）	○ （一般）		7 月依頼 9 月上旬
4	学習・教育目標の達成度に関する調査の点検 自己評価シートに関する改善方法の点検	○		◎						9 月上旬
5	学生との意見交換会の点検	○						◎		3 月上旬
6	平成 26 年度参与会で出された改善点の整理	○					◎			7 月下旬
7	卒業生・企業向けアンケート調査結果からの 改善点を検討し改善点の依頼	○	◎							9 月上旬
8	実施済研修会の効果の点検およびその改善	○				◎				7 月下旬
9	FD 研修会の企画・実施	○		第 2 回 企画		第 1 回 報告	第 1 回 企画	第 2 回 報告	○	年 2 回開催
10	エビデンス保管の電子化の改善	○	○		◎					7 月下旬
11	エビデンスの有効活用の検討	○	○		◎					9 月上旬
12	エビデンス収集・保管の改善（実務作業含む）	○			◎					WG で担当
13	試験問題レベルの保証確認	○ （電気）	○ （制御）	○ （機械）	○ （情報）	○ （環境）	○ （一般）	○ （一般）	◎	前期 11 月 後期 3 月
14	各部署への検討依頼、回答の集約	◎							○	随時
15	メール目安箱への対応	◎	○	○	○	○	○	○	○	随時
16	教育改善報告書の編集・発行(PDF)	◎	○						○	3 月下旬

## 2 平成 27 年度 各種委員会の活動状況の点検結果

### 1. 教務委員会

- (1) 平成 26 年度の教育改善委員会から提言された課題の改善状況  
平成 27 年度教育課程（学修単位導入等改訂された部分について）の検証
- (2) 平成 27 年度委員会の活動方針に基づいた活動状況

活動項目と主要課題	評定	根拠資料等
(1) 学力向上対策・学力不振者への対策 ・学力向上のための検討と対策 ・実力テスト・学習到達度試験・4 年 TOEIC の効果的な運用 ・学生自身による学習達成度の自己点検評価 ・アクティブラーニングについて ・特別学習支援	○	・第 1 回教務委員会資料（以下、下線部省略） 第 1 回実力テストについて 学習・教育目標等への周知について ・第 4 回 アクティブラーニングについて ・第 8 回、第 9 回 第 2 回実力テスト、平成 27 年度学習到達度試験について 学習・教育目標達成度自己点検について ・第 6, 7 回 到達度試験トライアル試験実施について ・第 8 回 第 2 回実力テスト、平成 27 年度学習到達度試験 ・第 10 回 平成 27 年度学習到達度試験について 平成 27 年度学習・教育目標達成度自己評価について ・第 12 回 平成 28 年度第 1 回実力テストについて 学習・教育目標達成度自己評価について ・第 13 回 平成 28 年度発達障害等学生および成績不振者学生を指導する特命教授の推薦について
(2) 授業時間割編成の効率化 ・効率的な時間割編成のための組織化 ・時間割編成方法の検討と作業	△	・第 3, 4 回 今後複数の委員で携わる
(3) 成績評価（定期試験）のあり方 ・成績評価方法について ・再試験のあり方について ・授業方法改善に向けた効果的な運用	○	・第 3 回 選択科目について 試験の遅刻、欠席について ・第 12 回 平成 27 年度進級単位について ・第 13 回 平成 27 年度学年別・学科別進級に必要な単位数について

<p>(4) 教育課程の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学修単位制度の検討 (教育効果の確認、導入可能な科目の確認)</li> <li>・特別学修単位について (E-Learning 科目等)</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回 学修単位および卒業研究について 開講科目、特別学修の検討</li> <li>・第5回、第6回 平成27年度開講科目「エンジニアリングキャリア」、「エンジニアリングデザイン」、「海外研修」について</li> <li>・第6回 学科共通専門科目</li> <li>・第7回 新規カリキュラムについて 平成28年度教育課程編成方針について 平成28年度履修の手引き(案)について</li> <li>・第8, 9, 10, 12, 13回 平成28年度教育課程表について</li> <li>・第8回 学習教育目標達成度自己点検について</li> <li>・第9回、第10回、第11回 教育課程表の一部変更について 学修単位制度の一部導入について</li> <li>・第11回、第12回 学習・教育目標の達成度調査について</li> <li>・第13回 特別学修英語の単位数の変更について</li> <li>・第14回 外国人留学生の教育課程について</li> </ul>
<p>(5) モデルコアカリキュラムの対応調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不整合な科目に対する対応</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回 モデルコアカリキュラムについて</li> <li>・第11回 平成28年度科目系統図について</li> </ul>
<p>(6) 諸行事・学事暦等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度学事暦の検討</li> <li>・諸行事の見直しと検討</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回 学校行事満足度調査結果について</li> <li>・第4, 5回 学事暦の見直しについて</li> <li>・臨時、第7回 平成28年度学事暦(案)</li> <li>・第8, 9, 11, 12回 平成28年度学事暦について</li> <li>・第13回、第14回 学校行事満足度調査について</li> </ul>
<p>(7) インターンシップ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4学年会、専門学科との連携強化</li> <li>・海外インターンシップの推進</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1, 3回 本科実務訓練および専攻科学外実習について</li> <li>・第2回 海外インターンシップについて インターンシップ事業について</li> <li>・第5回 実務訓練について</li> </ul>



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6回、第7回 実務訓練報告会について</li> <li>・第10、12回 実務訓練の手引きについて意見交換 その電子化について</li> <li>・第13回 平成26年度インターンシップ事業実施報告書</li> <li>・第14回 本科実務訓練、専攻科学外実習について</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>(8) 授業公開, 授業アンケート</li> <li>・授業参観の参加人数の増加推進</li> <li>・関連分野教員のグループ化および相互参観の実施</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回 授業公開実施要項について</li> <li>・第2回 授業評価アンケートについて</li> <li>・第3回 授業アンケート作成</li> <li>・第4回 授業アンケートの改善について</li> <li>・第5回 授業公開の反省</li> <li>・第7回 授業公開について</li> <li>・第8回 授業アンケート実施について</li> <li>・第8回 授業公開について</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>(9) 学科・科目間連携</li> <li>・学習到達度試験の教育効果向上策の検討</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3, 4, 5回 学科・科目間連携会議の開催について</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>(10) 専攻科との連携</li> <li>・本科と専攻科の連携を強化した教育体制の構築</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討なし</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>(11) 特別活動の充実</li> <li>・人間性育成教育を視野に入れた講演会の実施</li> <li>・キャリア支援のための教育内容改善</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討なし</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>(12) 広報活動・HPの管理</li> <li>・教務関係の広報まとめ</li> <li>・HPの管理</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メール、紙ベース、ホームページ等で、適宜情報発信を行っている</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>(14) 教務関係内規、申し合せ事項の検討(見直し)</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2, 3回 選択科目について</li> <li>・第5回 特別学修(外国語、専門科目)について</li> <li>・第6回 成績の評定、進級および卒業に関する内規の変更について</li> <li>第6回 選択科目の取り扱いについて</li> </ul>

		<p>第7回 平成28年度履修手引きについて 教育課程における選択科目の取り扱いについて(申合せ)(案) 成績評定並びに進級及び卒業に関する内規について</p> <p>第8回 平成28年度教育課程表(案)</p> <p>第9回 教育課程における選択科目の取り扱いについて(申合せ)(案) 長野工業高等専門学校学則の改正について</p> <p>「長野工業高等専門学校学業成績の認定並び級及び卒業に関する内規」の改正について</p> <p>第10回 内規の変更について</p> <p>第12回 今年度の新規選択科目について</p>
(15) シラバスの電子化	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4,5回 シラバスの科目コードについて</li> <li>・臨時 Web シラバスに関する依頼について</li> <li>・第7回 Web シラバス利用講習会について</li> <li>・第10, 11回 平成28年シラバス作成について</li> </ul>

(3) 平成28年度の活動に向けた提言

- ・時間割編成作業について現状のままでいいのかさらに検討が必要と思われる
- ・専攻科と本科の連携した教育体制について議論が必要と思われます。
- ・アクティブラーニングについてさらに継続審議が必要と思われます。

## 2. 学生支援委員会

(1) 平成26年度の教育改善委員会からの提言された課題の改善状況

今後の課題	評定	根拠資料 等
1. 教務委員会と連携して、低学年のキャリア教育を充実させる。	△	<p>第2回(工嶺祭中に開催されたキャリアセミナーと企業展については今年度中止)</p> <p>第3回(防衛大教授による講演会の中止)</p> <p>第10回(リーダーズ研修会)</p>

(2) 平成27年度委員会の活動方針に基づいた活動状況

主な活動内容	評定	根拠資料 等
<p>1. 福利厚生・学資支援(授業料免除、奨学金、健康・安全、他)</p> <p>授業料免除の選考、奨学金の推薦、交通安全講習会などの実施学生の福祉について</p>	○	<p>第1回(入学料徴収猶予、奨学金推薦、新年度における諸手続き)</p> <p>第2回(日本学生支援機構奨学生の選考、外国人留学生学習奨励費給付制度推薦者の選考、天野工業技術研究所奨学金推薦選考結果報告、心のケア講習会、いじめ防止)</p> <p>第3回(北信奨学財団奨学生・日本学生支援機構奨学生の推薦、授業料免除「学業優秀と認め</p>

		<p>られる者」の基準変更の説明)</p> <p>第4回(夏季休業中の注意)</p> <p>第5回(前期授業料免除の選考)</p> <p>第6回(卓越した学生に対する授業料免除、5学年交通安全講習会)</p> <p>第7回(1年薬物乱用防止講習会、3年生と性との講演会)</p> <p>第8回(後期授業料免除の選考、寄附金の使用計画)</p> <p>第9回(日本学生支援機構奨学金の推薦基準、皆勤・精勤賞)</p> <p>第11回(授業料免除の選考基準、学生表彰、学生の公欠に関する取扱い、春季休業中の注意事項)</p> <p>第12回(学生便覧の改正点)</p>
2. 進路活動支援(進路説明会、進路講演会、他)進路講演会、進学講演会、講習会の開催、進路指導方針の検討	○	<p>第7回(進路指導意見交換会の報告、4年生進路講演会)</p> <p>第8回(工嶺祭企業展、進路指導方針、5年生による1年特別進路講演会、4年生進学講演会、5年生有志による進学講演会)</p> <p>第9回(平成28年度進路指導方針について、会社説明会について、平成28年度卒業予定者の進路説明会)</p> <p>第10回(進路指導会議)</p>
3. 学生会活動支援(学生会、ボランティア、他)学生会への支援、各種委員会活動の活性化	○	<p>第2回(クラスマッチの要項審議)</p> <p>第4回(緑の自転車、献血活動)</p> <p>第5回(学生と学校との意見交換会)</p> <p>第8回(学生会選挙、関東信越地区高専文化発表会不参加、焼き芋企画)</p> <p>第9回(学生の意見要望書への対応)</p> <p>第10回(リーダーズ研修会、学生会選挙)</p> <p>第12回(学生と校長との懇談会)</p>
4. 課外活動支援(部長会、各種コンテスト、他)部・同交会の指導体制の確立、長期休業中の課外活動の実施方法の検討	○	<p>第1回(部・同好会指導教員)</p> <p>第2回(部・同好会活動の指導に関するガイドライン)</p> <p>第4回(長期休業中の宿泊を伴う課外活動、学生厚生補導設備充実費の募集、全国高専大会壮行会)</p> <p>第5回(夏季休業中の課外活動における校内宿泊、部・同好会指導教員との意見交換会、部室点検、同好会の設立)</p> <p>第7回(部・同好会指導教員との意見交換会)</p> <p>第11回(学年末休業中の課外活動、部・同好会指導教員)</p> <p>第12回(平成28年度課外活動指導教員)</p>

<p>5. 工嶺祭等支援（工嶺祭、他） 工嶺祭のあり方の検討と指導、実行委員会活動への支援</p>	<p>○</p>	<p>第1回（工嶺祭の実施に関する各学科の意見聴取の依頼） 第2回（アンケート結果について） 第3回（今年度の変更点の確認） 第4回（工嶺祭の指導体制） 第5回（工嶺祭日程・指導体制） 第6回（工嶺祭実施計画と指導体制等） 第7回（工嶺祭日程・指導体制） 第8回（工嶺祭での指導） 第9回（工嶺祭の反省） 第10回（工嶺祭の反省） 第12回（工嶺祭の反省・来年度の方向性）</p>
<p>6. 生活指導（環境美化・清掃、車両、飲酒喫煙、問題行動、他） アルバイトの指導、問題行動の防止 清掃デーの実施、交通安全・車両通学規定の遵守、車両・喫煙防止の巡回指導、SNSに関する指導</p>	<p>○</p>	<p>第1回（飲酒・喫煙・車両違反指導要領、駐輪場の清掃・前期清掃分担表、女子更衣室の使用、学校生活の安全と信頼関係の構築、交通安全およびSNS講習会） 第2回（無断アルバイト指導の報告、学生用駐輪場、本校のいじめ防止等基本方針について） 第3回（ゴミの分別の表示、構内の巡回、盗難報告） 第4回（盗難報告） 第5回（盗難・SNSによる誹謗中傷報告、懲戒の掲示について、後期清掃分担） 第6回（盗難・SNSに関する報告、校外指導） 第7回（不正行為、懲戒の説明、後期清掃分担、朝の通学指導） 第8回（近隣私有地内の無断通行と喫煙） 第9回（冬期間の車両特別許可申請、朝の交通指導、平成28年度全面禁煙、構内の落ち葉片付） 第10回（教室美シュランコンテスト） 第11回（不用自転車、放置自転車の整理 女子更衣室での盗難、構内全面禁煙の周知、寮務委員会との連携） 第12回（女子更衣室にて発生した盗難事件、 蔦屋書店長野徳間店駐車場における本校学生の無断駐車）</p>
<p>7. 広報活動（学生会活動、工嶺祭活動、課外活動等の広報、HPによる緊急時の連絡等）</p>	<p>○</p>	<p>就職・進学状況、学生会活動、課外活動等について web 上への速やかな結果報告他広報活動が随時行われた。</p>

(3) 平成28年度の活動に向けた提言

- ・教務委員会と連携して、低学年のキャリア教育を充実させる。
- ・問題行動の未然防止

### 3. 寮務委員会

(1) 平成 26 年度の教育改善委員会からの提言された課題の改善状況

(根拠資料内の「(資料○)」は委員会資料)

今後の課題	評定	根拠資料 等
自主性を持った寮務会主体の寮運営 →・寮務委員会・寮生会・指導寮生協議会を毎月寮務委員会の後に実施した。寮務委員会からの意見や検討事項を寮生会と共有することで、双方の良好な関係と効果的な寮運営ができた。	○	・平成 27 年度第 16 回寮務委員会議事録 議題 1. H27 年度総括と課題について(資料1)
7 号館の女子寮転用に伴う男子寮生への対応 →・留学生やチューターおよび外国からの長期短期のステイ学生を、丁寧な対応を図る意味から寮事務のある 3 号館に集中管理できる体制とした。それに伴い 3 号館談話室をシャワー 6 台を備えるシャワー室に改修した。	○	・平成 27 年度第 16 回寮務委員会議事録 議題 1. H27 年度総括と課題について(資料1)

(2) 平成 27 年度委員会の活動方針に基づいた活動状況 (根拠資料内の「(資料○)」は委員会資料)

おもな活動内容	評定	根拠資料 等
1. 寮の安全と環境整備 (1) 施設・設備 ・厨房内各種機器修繕、食堂給湯茶器2台更新 ・女子寮に AED を新設 ・地震時などの緊急時の自動消灯システムに電気自動解除システムの導入も開始された。 ・2号館・6号館の電気錠の修繕 (2) 感染症対策と感染状況 ・ノロウイルス、インフルエンザなど病気の発生率は昨年と比べさらに減少し、大規模な寮内感染は発生しなかった。 (3) 避難訓練等 ・一年生対象に1回、全寮生に対し1回実施した。 ・AED 講習会を実施 (4)心の相談室を開催 ・寮内で「なんでも相談室」を定期的に開催した。	○	・平成 27 年度第 1 回寮務委員会議事録 議題 5. H27 年度寮生指導方針について(資料5-1)  ・平成 27 年度第 16 回寮務委員会議事録 議題 1. H27 年度総括と課題について(資料1)
2. 寮生の生活全般 (1) 学習時間の確保と勉強会 ・寮では低学年の学生に対して、毎日の学習習慣確立のために、学習時間のコアタイムを設けている。当直教員による巡視も行われている。 (2) 入寮・継続在寮 ・協力退寮者の選定はこれまで違反点のみで判断していたが、今年度から通学時間、学年、成績、欠課時数、寮生会役員、資格および違反点を総合的に勘案したシステムに変更した。 ・平成 28 年度入寮予定数は、男子 85 名、女子 11 名である。	○	・平成 27 年度第 1 回寮務委員会議事録 議題 5. H27 年度寮生指導方針について(資料5-1)  ・平成 27 年度第 16 回寮務委員会議事録 議題 1. H27 年度総括と課題について(資料1)

3.当直について ・当直における点呼は本年度から、雄風寮については、点呼当番からの報告を受ける方法に改善したため、教員の負担が軽減された。	○	・平成27年度第16回寮務委員会議事録 議題1. H27年度総括と課題について(資料1)
4.朝巡視について ・朝巡視の必要性について検討すべきという意見があり、検討中である。	○	・平成27年度第16回寮務委員会議事録 議題1. H27年度総括と課題について(資料1)
5.外部の寮内立ち入りについて ・防犯カメラを設置した。(各館出入口)	○	・平成27年度第16回寮務委員会議事録 議題1. H27年度総括と課題について(資料1)
6.寮ネットワークについて ・昨年度からプロバイダを変更したため、通信速度が改善され、快適なインターネット環境になった。 ・昨年度に引き続き、留学生を除いて、Skypeを遮断していたが、各自の通信量を取り決めた上で、通信を許可することを委員会で決定した。	○	・平成27年度第16回寮務委員会議事録 議題1. H27年度総括と課題について(資料1)
7.寮生会活動(雄風寮) ・登校カードの周知が徹底されていなかった。 ・指導寮生協議会を実施した。	△	・平成27年度第16回寮務委員会議事録 議題1. H27年度総括と課題について(資料1)
8.留学生と国際交流学生 ・留学生数は5年生6名、4年生4名、3年生5名であった。 ・外国からの交流学生として、短期ステイ6名(香港IVE)、長期ステイ2名(香港IVE)、3名(シンガポールポリテク)があった。その際、ネットワーク、セキュリティ、捕食室等の問題があった。	○	・平成27年度第16回寮務委員会議事録 議題1. H27年度総括と課題について(資料1)
9.摂食率調査 ・チェックシステムを今年度から導入した。 ・朝食の摂食率の調査を行った。6割から7割くらいしか朝食を食べていない実態が明らかになった。 ・摂食率アップのため、来年度は今回から導入したチェックシステムを毎食ごとにする方向で考えて生きたい。	○	・平成27年度第16回寮務委員会議事録 議題1. H27年度総括と課題について(資料1)

(3) 平成28年度の活動に向けた提言

- ・登校カードの周知の徹底および活用方法の検討
- ・摂食率アップを目的とした、摂食率チェックシステムの効率的な活用方法の検討
- ・違反指導の厳重化

#### 4. 専攻科運営委員会

(1) 平成 26 年度の教育改善委員会からの提言された課題の改善状況

平成 26 年度については報告がなされなかったため、平成 24 年度の教育改善委員会から提言された課題の改善状況について述べる。

今後の課題	評定	根拠資料 等
1. 履修届提出とその確認が十分でないため、履修学生の正確な把握を確立する。	○	第 1 回 (活動計画および業務分掌)
2. 学生の連絡先等変更に対応し、授業・行事等の連絡を徹底し、オクレンジャーの運用方法の登録を促進する。	△	第 1 回 (業務分掌・面談)
3. 学生指導において、個人面談をより充実させ、メンタル面を含めた学習・進路指導を強化する。	○	第 1 回 (面談日程)
4. 学習・教育目標調査のまとめと分析をさらに強化する。	△	第 1 回委員会 (4 月 1 日) 資料 面談: 6 回 (1 年 3 回, 2 年 3 回)

(2) 平成 27 年度委員会の活動方針に基づいた活動状況

主な活動内容	評定	根拠資料 等
1. 新入生へのガイダンス (1) 授業履修方法の説明会  (2) 履修指導と単位取得状況の確認	○	第 1 回委員会 (4 月 1 日) 資料 2015 年 4 月 6 日ガイダンス  2015 年 4 月 6 日ガイダンス 2015 年 4 月中旬, 履修届提出後に履修科目を変更する学生がいるため, 4 月下旬に単位取得状況と併せて補佐と担当教員で確認する必要がある。 第 15 回委員会 (3 月 14 日) 資料, 平成 28 年度ガイダンス 第 16 回委員会 (3 月 24 日) 資料, 平成 28 年度新入生・2 年生ガイダンス
2. 専攻科入試の実施 (1) 推薦入試  (2) 学力入試	○	第 1 回委員会 (4 月 1 日) 資料 第 2 回委員会 (4 月 21 日) 資料, 2015 年 5 月 15 日推薦入試実施 第 3 回委員会 (5 月 19 日) 資料, 2015 年 6 月 16 日学力入試実施 第 4 回委員会 (6 月 19 日) 資料, 学力入試 第 5 回委員会 (7 月 24 日) 資料, 確約書の提出 第 8 回委員会 (11 月 17 日) 資料, 平成 29 年度入試 第 9 回委員会 (12 月 16 日) 資料, 平成 29 年度募集要項 第 10 回委員会 (1 月 20 日) 資料

		<p>第 11回委員会 (2月3日) 資料, 平成 29 年度募集要項</p> <p>第 13回委員会 (2月15日) 資料, 平成 28 年度入学手続期間</p>
<p>3. 学外実習 (長期インターンシップ・海外インターンシップ) の実施</p> <p>・学外実習報告会の実施</p>	○	<p>第 1 回委員会 (4月1日) 資料, 2015 年9月～2016 年1月</p> <p>第 2 回委員会 (4月21日) 資料</p> <p>第 3 回委員会 (5月19日) 資料</p> <p>第 4回委員会 (6月19日) 資料</p> <p>第 5回委員会 (7月24日) 資料, 実習先報告</p> <p>第 6回委員会 (9月8日) 資料, 実習先訪問</p> <p>第 7回委員会 (10月21日) 資料, 実習教員訪問日</p> <p>第 8回委員会 (11月17日) 資料, 訪問日程, 報告会日程・2016 年2月3日, 海外インターンシップ視察報告</p> <p>第 9回委員会 (12月16日) 資料, 報告会日程・2016 年2月3日</p> <p>第 10回委員会 (1月20日) 資料</p> <p>第 13回委員会 (2月15日) 資料, 報告書</p> <p>第 15回委員会 (3月14日) 資料</p>
<p>4. 特別研究 I および II に関する指導</p> <p>(1) 特別研究 I および II に関する説明会</p> <p>(2) テーマ提示と調整</p> <p>(3) 特別研究 I テーマ発表会</p> <p>(4) 特別研究 II 発表会の開催</p>	○	<p>2015 年4月～2016 年3月</p> <p>第 1回委員会 (4月1日) 資料</p> <p>2015 年4月6日ガイダンス</p> <p>第 2 回委員会 (4月21日) 資料</p> <p>第 4回委員会 (6月19日) 資料, テーマ発表会日程・2015 年6月11日および12日</p> <p>第 5回委員会 (7月24日) 資料, ポスター発表会</p> <p>第 6回委員会 (9月8日) 資料, ポスター発表会, 計画書</p> <p>第 7回委員会 (10月21日) 資料, 成績締切日, 日程, ポスター発表</p> <p>第 8回委員会 (11月17日) 資料, 日程</p> <p>第 9回委員会 (12月16日) 資料, 発表会日程他</p> <p>第 10回委員会 (1月20日) 資料, 発表会プログラム他</p> <p>第 12回委員会 (2月4日) 資料, 特別研究 I 報告書 (案)</p> <p>第 13回委員会 (2月15日) 資料</p> <p>第 15回委員会 (3月14日) 資料, 平成 28 年度特別研究 I, II の配属</p> <p>第 15回委員会 (3月14日) 資料, 概要集</p>



<p>5. 学士取得の指導</p> <p>(1) 学士取得に関する説明会</p> <p>(2) 学士レポートに関する指導・推進</p> <p>(3) 学位申請説明会</p>	○	<p>第1回委員会 (4月1日) 資料 2015年4月6日ガイダンス等</p> <p>2015年4月6日ガイダンス等</p> <p>第6回委員会 (9月8日) 資料, 計画書提出日程 第14回委員会 (2月25日) 資料</p>
<p>6. 進路指導</p> <p>(1) 情報提供について</p> <p>(2) 個別指導</p>	○	<p>第1回委員会 (4月1日) 資料 進路説明会開催 (2015年4月4日)</p> <p>第1回委員会 (4月1日) 資料, 面談: 6回 (1年3回: 2015年4月7日, 2015年9月24日~25日赤城フレッシュセミナーバスの中, 2016年2月, 2年3回)</p> <p>第3回委員会 (5月19日) 資料 第5回委員会 (7月24日) 資料, 1年生の面談状況報告, 2年生の進路状況</p> <p>第8回委員会 (11月17日) 資料, 2年生: 2回目の面談実施</p> <p>第10回委員会 (1月20日) 資料 第13回委員会 (2月15日) 資料 第14回委員会 (2月25日) 資料, 報告書 第15回委員会 (3月14日) 資料, 2年生の進路報告</p>
<p>7. 赤城フレッシュセミナーの実施</p>	○	<p>第1回委員会 (4月1日) 資料, 日程・2015年9月24日~25日</p> <p>第4回委員会 (6月19日) 資料 第5回委員会 (7月24日) 資料, 実施要項 第6回委員会 (9月8日) 資料, 実施要項の変更</p>
<p>8. 授業評価・学生満足度調査</p>	○	<p>第1回委員会 (4月1日) 資料 面談: 6回 (1年3回, 2年3回)</p>
<p>9. 意見交換会の実施</p>	○	<p>第1回委員会 (4月1日) 資料, 2016年2月 第8回委員会 (11月17日) 資料, 日程 第9回委員会 (12月16日) 資料, 日程 第10回委員会 (1月20日) 資料 第13回委員会 (2月15日) 資料 第15回委員会 (3月14日) 資料</p>

(3) 平成28年度の活動に向けた提言

- ・ 学習教育目標達成度調査のまとめと分析をさらに強化する。

## 5. 研究支援委員会

(1) 平成 26 年度の教育改善委員会から提言された課題と改善状況

今後の課題	評定	根拠資料等

(2) 平成 27 年度委員会からの活動方針に基づいた活動状況

活動項目と主要課題	評定	根拠資料等
1.教員の明細書執筆能力の向上 ・外部協力者（弁理士）に依頼し、特許明細書執筆の指導を行う。	○	・ 第一回研究支援委員会資料（資料-1）「知的財産戦略推進室」本年度の活動計画
2.知的財産の事業化支援および知的財産管理体制の強化 ・特許出願者に対するインセンティブの付与	○	・ 第一回研究支援委員会資料（資料-1）「知的財産戦略推進室」本年度の活動計画

(3) 平成 28 年度の活動に向けた提言

- ・ 外部資金獲得に向けて一層の努力を行う。

## 6. 広報企画室

(1) 平成 26 年度の教育改善委員会から提言された課題と改善状況

今後の課題	評定	根拠資料等
従来の広報活動（ホームページの充実, 科学イベントの実施, 県内の科学イベント・産業フェアへの参加協力, 公開講座, 出前授業, 刊行物の作成, ノベルティの作成）を継続し, より充実したものにしていく	○	ホームページの新着情報件数の増加
参加費が必要なイベントへの参加については引き続き検討していく	○	参加費が必要なイベントへの参加について, その都度検討を実施したが, 予算減のために結果的に実施せず

(2) 平成 27 年度委員会からの活動方針に基づいた活動状況

活動項目	評定	根拠資料等
ホームページのスマートフォン対応	○	ホームページ
科学イベントの実施	○	2015 長野高専スカイパーク科学館 長野高専キッズサイエンス 2015 など
県内の科学イベント・産業フェアへの参加協力	○	善光寺平フェア 2015 しんきんビジネスフェア ぞっこんさく市 上田地域産業展 2015 など
出前授業	○	出前授業のテーマをホームページに公開(33 件)

刊行物の作成	○	学園だより, ポスター, パンフレット
ノベルティの作成	○	エコバック, うちわ, 定規, クリアケース

(3) 平成 28 年度委員会の活動に向けた提言

- ・従来の広報活動（ホームページの充実, 科学イベントの実施, 県内の科学イベント・産業フェアへの参加協力, 出前授業, 刊行物の作成, ノベルティの作成）を継続し, より充実したものにしていく.
- ・予算減に対する対応の検討.

## 7. 国際交流センター

(1) 平成 26 年度の教育改善委員会から提言された課題と改善状況

- ・従来の国際交流活動を継続し, より充実したものにしていく.

(2) 平成 27 年度委員会の活動方針に基づいた活動状況

活動項目	評価	根拠資料等
英語弁論大会への支援	○	7 月に校内で英語弁論大会を実施した. また, 関東信越地区大会に 3 名が参加した.
学生の国際的学術活動への推進	○	IGNITE2016 において専攻科生 1 名, 本科生 2 名が研究発表を行った. また, 専攻科生が Best Poster Award を受賞した.
海外インターンシップの支援	○	海外インターンシップとして本科 4 年生が台湾に 2 名, 香港に 6 名, 中国に 3 名, インドネシアに 2 名, カンボジアに 3 名参加した. 専攻科 1 年生がタイに 4 名, 台湾に 5 名参加した.
外的機関との交流・提携の推進	○	マレーシアのクアラルンプール大学と交流協定を締結した.
国際会議への出席の推進	○	IGNITE2016 において 3 名が研究発表を行った.
国際的視野の広がりや国際的コミュニケーション力の向上の育成	○	8・10 月に東京日本語教育センターとの交流会を実施した.
外国機関等に所属する外国人との交流事業の実施	○	4~6 月に香港 IVE から学生 2 名を受け入れた. 9~10 月にシンガポールから 3 名の学生を受け入れた. また, 7 月にタイ教育省との交流協定に基づいて 21 名の学生を 2 週間受け入れた. 9 月には引率教職員訪問団も受け入れた. 7 月にタイ・香港からの短期留学生 (28 名) のバス研修を実施した. 8 月に香港 IVE での海外研修に学生 6 名が参加した.
海外留学・語学研修等への啓蒙	○	3 月にシンガポールへ研修旅行を実施した.

留学生交流会の企画・実施	○	懇談会を6月に実施し、意見交換会を2月に実施した。
留学生の学生生活の支援	○	外国人留学生生活ガイドブックを改訂。
広報活動	○	海外インターンシップについて、学園だよりに掲載した。
予算の獲得	○	JASSOからの協定派遣奨学金に専攻科生5人分(タイ・台湾)、本科生6人分(香港・台湾)が採択された。
国際的活動報告書の作成	○	3月に報告書を作成した。

(3) 平成28年度委員会の活動に向けた提言

- ・従来の国際交流活動を継続し、より充実したものにしていく。

## 8. 教育改善委員会

(1) 平成26年度の教育改善委員会から提言された課題の改善状況

今後の課題	評定	根拠資料等
① エビデンスの有効活用	×	電子化が定着したが、有効活用の活動の実施を望む(次年度への課題)
エビデンス保管の電子化の改善について	○	表紙改善要望等があり、ファイル名の改善(1回)、表紙の検討・決定・改善(2から4回)を行った。
② 科目別自己評価シートに関する改善方法の点検	△	新方式〔電子式〕が今年より教務委員会で実施した。報告書が提出され、それに基づき点検を行う。(次年度への課題)
③ 学習・教育目標の達成度に関する調査の分析・評価の点検	△	②と同じ (次年度への課題)
④ 第Ⅱ期中期目標・計画の点検	×	H26年度自己点検評価報告書にまとめられたが、点検は未実施である。(次年度への課題)
⑤ 授業改善システムの評価と点検	×	評価は実施したが、点検・改善は実施していない(次年度への課題)。

(2) 平成27年度委員会の活動方針に基づいた活動状況

主な活動内容	評定	根拠資料等
① 平成27年度各種委員会の活動状況の点検	○	5回で報告、提言を決定
② 第Ⅱ期中期目標・計画点検	×	H26年度自己点検評価報告書にまとめられたが、点検は未実施である。(次年度への課題)
③ 授業改善システムの評価と点検	×	評価は実施したが、点検・改善は実施していない(次年度への課題)。
④ 学習・教育目標の達成度に関する調査の点検	△	新方式〔電子式〕が今年より教務委員会で実施した。報告書が提出され、それに基づき点検を行う。(次年度への課題)

⑤ 学生との意見交換会に関する点検	○	5回で報告
⑥ 平成26年度参与会で出された意見に基づいた改善点の整理	○	5回で報告
⑦ 卒業生・企業向けアンケート調査結果からの改善点を検討し各部署へ改善点を依頼	○	5回で報告
⑧ 実施済研修会の効果の点検およびその改善	△	FD研修はその場でアンケートを実施し、3回、4回で結果報告。今後の実施法については5回で報告
⑨ FD研修会の企画・開催および報告書の作成 第1回 「科研費獲得の方法とコスト」 6/10 第2回 「学生参加を促す質問技術」 9/18 第3回 「高専卒業生キャリア調査」 結果について 12/4	○	第2回FDは、3回で結果報告、第3回FDは、4回で結果報告がそれぞれあった。
⑩ エビデンス保管の電子化の改善	○	表紙改善要望等があり、ファイル名の改善（1回）、表紙の検討・決定・改善（2から4回）を行った。
⑪ エビデンスの有効活用の検討	×	電子化が定着したが、有効活用の活動の実施を望む(次年度への課題)
⑫ エビデンス収集・保管	○	第1回 今年度の収集保管を決定ワーキンググループで対応
⑬ 試験レベル保証確認	○	メールで学生課より依頼 4回で前期分、5回で後期分を確認
⑭ 各部署への検討依頼、回答の集約	○	随時実施
⑮ メール目安箱への対応	○	随時実施
⑯ 平成27年度版教育改善報告書の編集・発行	○	5回で確認、グループウェア上で公開する。

### (3) 平成28年度の活動に向けた提言

- ① エビデンスの有効活用と保管の電子化の改善について
- ② 科目別自己評価シートに関する改善方法の点検
- ③ 学習・教育目標の達成度に関する調査の分析・評価の点検
- ④ 第Ⅱ期中期目標・計画の点検
- ⑤ 授業改善システムの評価と点検

## 9. 第3者評価対応委員会

### (1) 平成26年度の教育改善委員会から提言された課題の改善状況

主な活動内容	評定	根拠資料 等
① 今後のJABEE審査実施に向けての準備 (JABEE用系統図(表6)と学習・教育目標と科目の関与(表4)の作成体系の確立を含める)	○	11月より、自己点検書の作成と根拠資料の収集を行う。また、表6の作成依頼をし、4月末に完成予定。
② 平成27年度の大学評価・学位授与機構による専攻科の教育の実施状況等の審査の準備	○	申請を行った

(2) 平成 27 年度委員会の活動方針に基づいた活動状況

主な活動内容	評定	根拠資料 等
① JABEE 認定継続審査への対応	○	11 月より、自己点検書の作成と根拠資料の収集を行う。また、表 6 の作成依頼をし、4 月末に完成予定。
② 認定専攻科の教育の実施状況等の審査への対応	○	専攻科運営委員会に協力して申請書を提出。
③ 参与会の開催	○	2/1 に実施、3/2 報告書がグループウェアで公開された。
④ 卒業生アンケートの実施	○	7 月に実施した。分析は外部に依頼
⑤ 外部からの各種調査への対応・研修会への参加	○	随時、対応・参加した

(3) 平成 28 年度の活動に向けた提言

- ① JABEE 審査実施に向けての自己点検書作成・資料作りと審査実施

### 3 平成 27 年度における各種点検報告

#### 3-1 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査より 改善内容の検討と各部署への依頼

2014(H26)年度に本校H23, H24年度専攻科修了, 本科卒業生および就職・進学先機関に対して行われた本校の教育評価アンケート調査結果から, 改善点の整理を行ったので, 以下に報告する.

##### (1)本校の教育に関するアンケート調査結果と問題点

(詳細は, 2014(H26年)年度版教育改善報告書の「3 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査実施結果」を参照のこと)

##### 1-1 目的

- ・本校の本科卒業生および専攻科修了生が, 在学時に身につけた学力, 資質, 能力に満足しているか. また, 卒業・修了後に仕事等で役に立っているかの意識について把握する.
- ・本校の本科卒業生および専攻科修了生が, 在学時に身につけた学力, 資質, 能力が, 社会においてどのような評価を得ているか把握する.
- ・本校の教育の成果, (卒業生の満足度, 社会の評価等)を点検することにより, その後の教育改善に役立てる.

##### 1-2 調査対象者

長野高専本科卒業生  
長野高専専攻科修了生  
長野高専本科卒業生と専攻科修了生の就職先および進学先機関

### 1-3 アンケート結果

#### 1-3-1 長野高専における在学中の教育について

	専攻科修了生, 本科卒業生の評価 (自己評価)	就職先および進学先機関の評価 (第三者評価)
優れている		◎問題や課題に対して様々な知識を用いて解決する能力や姿勢 67%
普通	○工学や技術に関する専門的な知識や能力の素養 46% ○数学・自然科学・情報技術など技術者としての素養 58% ◎語学やコミュニケーションに関する能力 50% ○問題や課題に対して様々な知識を用いて解決する能力や姿勢 55% ◎社会的な倫理観 81% ○物事を表現したりプレゼンテーションを行う能力 45%	○工学や技術に関する専門的な知識や能力の素養 46% ○数学・自然科学・情報技術など技術者としての素養 56% ○語学やコミュニケーションに関する能力 53% ○社会的な倫理観 50% ○物事を表現したりプレゼンテーションを行う能力 53%
やや不足	特になし	特になし

#### 1-3-2 修了・卒業後の状況, その他について

	専攻科修了生, 本科卒業生	就職先および進学先機関
修了・卒業後	○特に重点的に学んだと思う知識: 専門技術や工学 76% ○自分の知識や技術がどのように変化: 向上 61% ○長野高専で学んだ基礎的な工学の知識: 大いに役立っている 47% ○長野高専で学んだ数学・自然科学・情報技術に関する知識: 大いに役立っている 36% ○長野高専で学んだ語学やコミュニケーション能力: 普通 46%	○特に能力が向上したと思われる分野: 専門技術や工学 77% ○現在の専門的な知識や技術: 向上した 50% ○現在の語学やコミュニケーション能力: 向上した 60%



技術士資格	現在技術士補に登録：登録していない 55% 技術士になろうとしていますか：している 33% 技術士補または技術士になる目的：自分の資格として 50%	
-------	--	--

#### 1-4 企業や進学先からの自由記述

- ・特に不足している資質・能力はありません。幹部候補としてのリーダーシップをどのように発揮するかが備わっていると鬼に金棒といったところでしょ。
- ・英語力が不足しているので補強した方がよい。
- ・一年で設備制御できる能力は、高専生の力である。2年目から一人で技術スタッフとしてお客の場で設備稼働する素養を教育いただけている。
- ・物事を広い目で見れる資質、物事の先を読むとする能力。
- ・様々面からみて極めて優れた資質を有し、研究遂行能力も非常に高い学生です。向上心もあり、意欲的に取り組む姿勢を高く評価しています。
- ・卒業研究において、教授によって温度差があったことを感じます。卒業研究に打ち込んだ程度が、就職後の姿勢として響くと思います。もっと集中して研究をする体制を確立した方がよいと思います。
- ・個人の資質によるところが大きいと思いますが、「俺が、俺が」の自己主張の強い人は、コミュニケーション・プレゼンテーションの能力に優れていますが、協調性に欠けていると思います。バランスのとれた人格形成をとれるよう学生時代を学び、遊び、と楽しみください。
- ・コミュニケーションやプレゼン(文章)能力がやや不足している。自分の考えをわかりやすく他者に伝えられると良いと思います。
- ・主に建設コンサルタント業務に従事していますが、客先との打ち合わせ時に、技術力は十分なため稀に断定的な返答が見受けられます。もう少し丁寧な説明と客先の立場も理解しながらコミュニケーションがとれれば良いと考えます。今後経験を積むことで改善されると考えています。
- ・新しい分野、不足部分も必要に迫られて、調査から実践することで正確に消化吸収できるので、未知の柔軟性も可です。同世代と比べ、広い範囲の基礎があるので、十分挑戦し、乗り越える資質は養われています。
- ・いわゆる専門分野以外への取り組みに若干弱いところがあるかもしれません。企業におりますと、やる事が多岐にわたり、自分の専門って何？という状況になります。(特に当社のような中小企業は)電子機器を製品化するうえでただ動作するだけの物では製品と言えません。高温試験に耐え得る材料の選定、不良率を見越した生産量設定など様々なスキルが必要になります。
- ・コミュニケーション能力が不足しています。はじめは他の学生とのコミュニケーションもおぼつかなった。ひとりで行う研究能力は問題ありません。
- ・物事を多角的に見る視点(若干視点が一方向に偏っています。)・・・他の新人も同様ですが、
- ・客先や業者との交渉力が向上するとさらに良いと感じています。まだ、機会が少ないことが要因だが、今後の経験により養われてくると思っています。

#### 「その他、感想または意見・要望」

- ・社会のリーダーシップは知識だけでは発揮できません。他人の気質を知り、それぞれに対応できる能力をリーダーシップと考えます。「出るクギは打たれる」は知識が先行し物事を進めた結果、周りの反感を買うからで、人との接しかたの中でクリアされる内容です。この点の教育も研修の場を設けて実施も検討してみてください。
- ・少人数の教育の効果と思う。マルチ、大講義室での教育より優れていると感じます。人を育

てるのは人であり、近くに感じる人から良いものを学ぶと感ずます。

- ・高専卒業生は自信を持って社会に送り出せる若者が多いと思います。
- ・卒業時に修得している知識そのものも重要ですが新しいことに取り組む姿勢や向上心といった部分が大学への編入生には求められると思います。当該学生はその点を十分に持ち合わせており、高専からの編入の非常にいい例であると考えています。
- ・大変優秀な学生です。他の学生のサポートもしっかり行ってくれます。
- ・現状では、測量・設計(砂防, 橋梁, 道路, 水路等)業務の様々な作業を断片的に実施していますが、どの作業についても興味を持ち、意欲的・積極的に実施しています。今後は、専門分野を絞り込み、一人で一連の業務を行うようになると素晴らしい戦力になると期待しています。今後も変わらず意欲的に業務に取り組むことで、技術士等の資格を取得し、管理技術者として活躍してくれるはずです。
- ・基礎学力(機械系, 4力学)がしっかり身に付いており、新たな課題に対する取り組みの姿勢が良い。他学生の模範となっている。
- ・当社品質保証部へ配属後1年経過するが業務への取り組み姿勢、成果ともに優秀であると感じています。

### 1-5 総括

○本校の教育は、おおむね良好と言える。同世代と同等あるいはそれ以上の能力や知識を有して修了および卒業していると判断できる。

○修了および卒業後も、ほとんどの人は、業務の遂行や研究活動を遂行する上で、専門工学分野に関する知識や技術の向上に努めていると判断される。また、その際、本校で学んだ基礎的な専門・工学に関する知識は十分に役立てられていることが分かる。

○語学・コミュニケーション能力については普通の評価が多く、改善の余地があると思われる。

○対応力、判断力、状況理解力、パイオニア精神、リーダーシップなど人間力や社会性に対する不足を指摘する意見もある

○JABEE認定コースである産業システムプログラムの修了生(専攻科修了生)は、自己の資質向上のひとつとして、将来技術士資格取得を目指す人が多く見受けられる。このことから、技術士に関する情報提供等を充実させる必要がある。

○社会的な倫理観については、改善の余地もあると推測されるが、理解不足のため、今回は割愛する。

優れた点 (充実している点)	改善の余地がある点(問題点)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門教育</li> <li>○問題解決能力や姿勢 (優～普通)</li> <li>○プレゼンテーション能力 (優～普通)</li> <li>○数学・自然科学・情報技術 (優～普通)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○語学・コミュニケーション能力</li> <li>○人間力や社会性(対応力, 判断力, 状況理解力, パイオニア精神, リーダーシップ)の不足</li> <li>○社会的な倫理観</li> <li>○技術士資格取得への支援</li> </ul>

## (2) まとめと提言

アンケート調査実施結果の4.1、4.3、4.6より、同僚や他学生と比較して、語学やコミュニケーションおよび物事を表現するプレゼンテーション能力が低い傾向を示しており、学習・教育目標のFの充実が望まれる。

同じく4.4より、工学が異論的な共通科目の設置や、学んできた専門分野以外にも様々な分野の知識が要求されている。融合複合の重要性を感じ、学習・教育目標のD3の充実が望まれる。

同じく4.5より、技術士に関する啓蒙活動や情報提供等(講習会)を継続的かつ積極的に実施していく必要がある。

### 3-2 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検

#### (1) 調査内容

本科の学生に対し、各項目の学習・教育目標を挙げている。各項目の達成度について、平成27年2月2日から3月3日に本科5年生全員を対象に教務委員会で調査・分析を行い、報告書【付録1：平成26年度学習教育目標に対する学生自己評価報告書】がだされている。

#### (2) 調査結果の概要

学習・教育目標の目安として、5段階評価としてアンケート調査の結果は、各学科別に教育目標ごとの帯グラフとしてまとめられている。

#### (3) 点検結果と検討課題

今回の調査も記名方式としたため、提出の有無が明らかとなり、真剣な態度で評価・記入してある学生が多かった。

教育目標ごとに大項目と細項目に分けられ達成度が記述されている。自己点検を実施する際、担任から自己評価の点数は、十分達成できたが“5”とし、達成できなかったが“1”とするように説明を受けている。

#### (4) まとめ

新形式での学習・教育目標の達成度自己評価は、今回が4回目であり、今後数年実施し、その結果について、教務委員会と専攻科運営委員会で連携して総括していただきたい。

また、学習・教育目標の達成度自己評価の分析は、本科5年生だけでなく、専攻科生や各学年についても行い、その結果を活用して本来の目的である授業改善につなげていければよいと思われる。

参考資料として付録1に、教務委員会から提出された

【平成26年度学習教育目標の達成度自己評価に対する報告書】を示す。

### 3-3 学生との意見交換会に関する点検

#### (1) 本科学学生との意見交換会の点検

学習・教育目標、教育課程、教育方法、評価方法、教育環境、学校行事などに対する意見や要望を学生から聞き、学校からは回答する形式の意見交換が、教員および学生が一堂に会して例年行われている。今年は学生の代表である学生会役員との意見交換会を実施した。学生側参加者の内訳は、27年度正副学生会長、27年度各係長、28年度正副学生会長などであった。教職員側の参加者は、校長、学生主事、学生支援委員、学生係職員であった。実際の意見交換では、「学生会活動のあり方について」、「学生会の学校運営へのかかわりについて」、「学校行事（クラスマッチ、工嶺祭）について」などのテーマに基づいて話し合いがなされた。

話し合いは学生側から提示された意見に教職員が直接答える形式で行われた。主な意見と回答は以下の通りである。

- ・ 始業式の担当を学生会にできないか。

教務委員会主導で、学生会はアシスト役で参加してみてもどうか。

- ・ 学習科目の単位が増え、レポートなどが多くなり、自主学習の時間がない。

今後校長の指示を各学科により明確に伝えるようにする。

また、その他の意見として、「寮生と通生の間に温度差がある」や、「学生と校長の話し合いの場を増やしてほしい」などがあつた。

#### (2) 専攻科学生との意見交換会の点検

専攻科において、研究・施設および設備・講義・進路などに対する意見や要望として、

- ・ 研究室を使用できる時間が短い
- ・ プリンタが十分作動しなかったり、暖房が効きにくいなど、設備に不満がある
- ・ 休講・補講の連絡を確実にしてほしい
- ・ 印刷物の配布資料が多い
- ・ 進路に関する学校側の準備が遅い
- ・ 面接練習や説明会などを拡充してほしい

などが出された。

平成28年2月17日に開催された意見交換会の場で学生にこれらの回答があり、説明された。しかし、施設使用に関して、毎年出ている要望で、研究活動を行いたい学生も多くいる。

#### (3) まとめ

学生からの要望は多くあり、建設的な要望も多く、継続的に、学校側は耳を貸して、説明を行ったり、改善策を考えたりする必要がある。

また、学習・教育目標、教育課程、教育方法、評価方法に対する意見や要望があまり学生からはでていないが、意見を積極的に聞いて頂ければと思う。

さらに本科生の場合、書面でのやり取りだけでなく、会議方式で学生・教員が双方の顔を見ながら要望を聞き、説明することも重要と考える。

なお、参考資料として、以下を付録に掲載する。

- ・ 付録2【平成27年度学生会役員との意見交換会 議事録】
- ・ 付録3【平成27年度 専攻科意見交換会報告書】

### 3-4 平成26年度参与会の報告書の点検と出された改善点の整理

平成26年7月7日に第11回長野高専参与会が実施され、その概要が報告書「第11回長野工業高等専門学校参与会議事概要」にまとめられている。この報告書の内容に基づき、本校が今後取り組むべき課題は何か、以下に報告する。

#### 1. 参与会の概要

##### (1) 出席者

- ・ 参与会のメンバー→7名
- ・ 本校関係者→校長他24名

##### (2) テーマ→「長野高専の中期ビジョンについて」

##### (3) 協議題

- ・ 高専機構の中期ビジョンについて
- ・ 高専機構の第3期中期目標・中期計画及び平成26年度計画について
- ・ 長野高専の中期ビジョンについて

##### (4) 議事概要

参与会会長である大石修治信州大学工学部長が議長となり、議事が進行された。上記の協議題ごとに本校担当者より配付資料に基づいた説明があり、その後質疑応答が行われ、参与会のメンバーよりいくつかの貴重な提言をいただいた。

#### 2. 今後の課題

参与会で出された質問・意見をもとにして、今後本校が取り組むべき課題を整理した。

- (1) アクティブ・ラーニングの推進（学外実習、選択科目の効果的導入、寮内での高学年が低学年をサポートするシステムの活性化、学び方（方法論）の獲得）
- (2) インターシップの期間や対象学年を広げることに関する検討
- (3) 外部資金の継続的な獲得
- (4) 中期ビジョンの実現

なお、参考資料として、以下を付録に掲載する。

付録4【第11回長野工業高等専門学校参与会概要】

### 3-5 実施済み研修会の効果の点検およびその改善

- (1) 平成27年度には、3回FD研修会が(6/1, 9/18, 12/4)が開催された。  
研修会の効果を点検するため、FD研修会終了後、それぞれについて参加者に対しアンケート調査を実施したところ、研修会の開催時期と年度内の開催回数について意見が分かれる結果となった。
- (2) 第一回研修会(開催日: 6/19, 演題: 科研費獲得の方法とコツ、参加者数: 63名)では、内容も好評であり、テスト期間中の開催であったが、53人中39名(73%)が開催時期は妥当であると回答した。一方、第3回研修会(開催日: 12/4, 演題: 高専卒業生キャリア調査結果について、参加者数: 54名)では、開催時期は妥当であると回答した人数は、44名中23名(52%)にとどまり、これまでと同様、テスト期間中に開催されたにも関わらず、開催時期が妥当であるとの回答結果が著しく低下した。一部の教員からは、年間3回は多いとの意見も寄せられた。
- (3) FD研修会開催にあたっては、教員の業務に負担にならない開催時期と開催回数を検討すべきである。
- (4) 第一回研修会で行われた「科研費獲得の方法とコツ」に関して、本校の科学研究費助成事業への申請数と採択数(継続課題を含む)は、年を追うごとに数値が上昇しており、本研修会の効果があったと判断できる。

表 科学研究費助成事業の各年における申請数と採択数

	申請数	採択数(継続課題を含む)
平成26年	53	14
平成27年	68	21
平成28年	79	24

### 3-6 エビデンス保管の電子化の改善および有効活用の検討

#### (1) エビデンス表紙の点検

昨年度の教育改善委員会 WG において、「エビデンス表紙の Excel ファイルが使いにくい。学科や学年を手書きで書かなければいけないし、○で囲むという作業も Excel ではやりにくい。そもそも表紙は必要なのか？pdf ファイルにしたのであるから、ファイル名で内容がわかるはず」という意見が出たようで、それについて昨年度の教育改善委員会で検討された結果、「表紙については今後改善していく。表紙の必要性については、必要あり」ということになった。

それを受けて、今年度の教育改善委員会 WG において新たな Excel 表紙案を提案することになったが、Excel 表紙は年度当初に全教員に案内する必要があるため、実際には WG 委員長である大矢が新たな Excel 表紙案を作成し、それを教育改善委員会にかけて了承していただき、全教員への案内という流れになった。

今回の新しい Excel 表紙は、以下の特徴がある：

- ・特に非常勤教員を考慮して、そのまま印刷して記入して、○で囲めるようにも作成した。
- ・そのまま印刷しない場合には、学科・学年などの選択で済む部分は全て選択形式にして、記入しなくて済むようになった。
- ・記入すべきところは、科目名・教員名・各種点数、のみである。
- ・前期中間試験、後期中間試験などを○で囲む必要がないように、これも選択式にした。ただし、そのまま印刷したときと見た目が異ならないように、単に選択式にするのではなく、印刷して○で囲んだものとの差異が少なくなるように工夫した。
- ・末尾のチェック欄についても、クリックするだけでチェックできるように工夫した。
- ・また、「新しい Excel 表紙より従来の方が使いやすい」という意見もあらかじめ想定し、従来型の Excel 表紙も用意した。
- ・以上について、全教職員に案内するとともに、もし問題点や改善点があったらお知らせいただけるようにも連絡したが、今のところそのような声はいただけていない。

今後も、随時、問題点や改善点の声をいただいたなら、ただちに改善していくつもりである。

#### (2) エビデンス内容の点検

現在、エビデンスの提出件数は 4 点となっているが、それについてある教員から「4 点を抽出して 4 点だけのエビデンスを作成するには手間がかかるため、抽出せずに全てをエビデンスにするわけにはいかないのか。少なくとも 4 点入っているので問題ないのではないか。教育改善委員会で検討していただきたい」という意見が出た。それを受けて、教育改善委員会で検討した結果、「審査の場合には 4 点が必要なため、原則 60 点以上を 4 点として行う」ということになった。ただし、審査の対象となったエビデンスには、もし 4 点より多い場合には 4 点に作り直していただく

必要がある。これを受けて、教育改善委員会 WG メンバーにはその旨を連絡し、これは次回のエビデンス収集から適用される旨を連絡した。

今後も、エビデンス内容について改善や問題点などがある場合には、教育改善委員会で検討していくつもりである。

### (3) 今後への提言

エビデンス表紙については、今後も、随時、問題点や改善点の声をいただきながら、その都度、ただちに改善していくことが求められる。また、エビデンス内容についても、今後も教員から意見をいただきながら、よりよい方式に改善していくことが求められる。

また、エビデンスの有効活用については、今後も検討が必要である。



## 4 平成 26 年度 FD 研修会 実施報告

### 4-1 平成 27 年度 第 1 回 FD 研修会 実施報告

#### 1. 研修会概要

講 師 : 久留米大学分子生命研科学研究所 教授 児島 将康 氏

講演題目 : 「科研費獲得の方法とコツ」

日 時 : 平成 27 年 6 月 10 日 (水) 15:00~16:30

場 所 : 電子情報工学科棟 5 階 100 番教室

司 会 : 一般科 内山 教授

冒頭挨拶 : 黒田 校長

講師紹介 : 楡井 研究・地域連携担当副校長

参加者数 : 63 名

#### 2. 講演内容

科研費申請書作成のポイントについて、実例を紹介しながらわかりやすくお話頂いた。具体的なポイントは、「1. 審査員を意識して書く。2. 具体的に書く。3. 研究目的は明確に。4. 自分の研究成果を十分にアピールする。5. 研究種目と応募分野の選択は慎重に。」であった。なお内容の詳細は、本文末の添付資料に示されている。

#### 3. 質疑応答

1. 【問】論文業績がないと申請書を書きにくいですが、何かよい方法はないでしょうか。

【答】科研費獲得のためには、業績はどうしても必要です。なんとか頑張って論文を書いて頂きたい。論文業績がないのが理由で挑戦的萌芽研究に応募される方がいますが、厳しいと思います。

2. 【問】「研究目的の概要」の書き方で、最初に背景、次に目的、、と書く方が書きやすいと思いますが、。。。

【答】今回の説明では、①目的、②背景、③展開の順で書く例を紹介しましたが、多少順序が逆になってもそれほど違和感はないと思います。

#### 4. アンケート集計結果 (回収数 : 53)

(項目 1) : 第一回 FD 研修会としてのテーマ設定はいかがでしたか

48 : 妥当であった、 1 : 妥当ではなかった、 4 : どちらとも言えない

(項目 2) : 第一回 FD 研修会としての開催時期は適当でしたか

39 : 適当であった、 5 : 適当ではなかった、 9 : どちらとも言えない

(項目 3) : 全体的な講演内容に興味をもてましたか

41 : 大いに興味をもてた、 10 : 少し興味をもてた、 2 : あまりもてなかった、  
0 : 全くもてなかった

(項目 4) : 今後の科研費応募に活かせる内容でしたか

41 : 大いに活かせる、11 : 少し活かせる、 1 : あまり活かさない、 0 : 全く活かさない

(項目 5) : 今後このようなテーマ設定の研修会に参加したいと思いますか

41 : 参加したい、 2 : 参加しない、 10 : どちらとも言えない

(項目 6) : H27 年度 FD 研修会に対して何かご意見がありましたら、ご記入ください

(自由記述)

- ・ 科研費に関する研修が過去にもあった上で、今回も組まれたことに、外部資金の重要性を感じた。
- ・ 内容は、他で聞いたこともあるものもあったが、総合して、分かりやすく、参考になった。
- ・ 実用的な内容でよかったので今後のテーマ選択も同様をお願いしたいです。
- ・ テスト期間中の開催はよくない。
- ・ 試験中は、問題作成、採点などでやる事が多い。
- ・ 参考になる研修会であれば参加したい。
- ・ 教育方法に関する内容 (のテーマを希望する)。
- ・ 調査研究を主体にされた先生の講演は何度か聞いているので、開発研究を主体にされている先生のお話を聞いてみたいです。
- ・ 具体例が多く、大変わかり易い説明で、参考になりました。
- ・ 教室の前方は首の上下の動きが大きいためつかれました。前方にひとがいなるといけないように思いますが、実は研修等では一番見にくい場所です。

## 5. むすび

外部資金獲得の重要性から、今年度の第一回目のFD研修会のテーマが選ばれた。研修会終了後に行われたアンケートでは、テーマの選定とその内容に肯定的な意見が多く、多くの教員から、(今回の研修内容は)、今後の科研費応募に活かせるとの感想が得られた。一方、試験期間中に研修会を行うことに躊躇する意見がいくつか寄せられたが、多くの教員は開催時期が妥当であったと回答した。

実例が多く紹介された今回の講演内容は、とても分かりやすいと感じられた。研修内容も具体的で実用的であったが、授業方法やプレゼンテーションの具体例としても非常によいものであったと思われる。今回の例を参考に次回の研修テーマと講師を選ぶのがよいと考えられる。

なお、当日配布された資料は、グループウェアに掲載されている。

資料参照は、付録5【平成27年度 第1回FD研修会 講演資料】に示す。

## 4-2 平成27年度 第2回 FD 研修会 実施報告

### 1. 研修会概要

講師：株式会社 ICC ラーニング 鹿野晴夫 氏  
講演題目：アクティブラーニングの実践に向けて「学生参加を促す質問技術」  
日時：平成27年9月18日（金）15:00～17:00  
場所：電子情報工学科棟5階 100番教室  
司会：電子情報工学科 押田 教授  
冒頭挨拶：黒田 校長  
講師紹介：押田 教授  
参加者数：46名

### 2. 講演内容

前半が講義形式、後半が演習という2時間の研修であった。アクティブラーニングの定義から始まり、質問とディスカッションを授業に導入することによって得られる学生の積極的参加に到る手法をわかりやすく講義していただいた。アクティブラーニングとは、講義に演習実習やディスカッションを組み合わせるもので、それらの目的は、学生に興味を持たせ、考えさせ、そして参加を促すことである。後半の演習では、教員同士ペアを組んだりグループを作ったりして実際に授業の動機づけ等の練習を行った。

### 3. 質疑応答

- 【問】学生に対して授業中にする質問として、他のものはないのですか？  
【答】そのことも含めて、今回の研修会で確認してください。
- 【問】学生に質問をするもっと良いタイミングはいつですか？  
【答】それぞれのタイミングにそれぞれの利点がある。冒頭や終了時だけでなく、途中で質問すれば理解度の確認もできる。

### 4. アンケート集計結果（回収数：36）

- 項目1：テーマ設定はいかがでしたか  
妥当であった 34 妥当ではなかった 1 どちらとも言えない 1
- 項目2：第2回FD研修会としての開催時期は適当でしたか  
適当であった 24 適当ではなかった 5 どちらとも言えない 7
- 項目3：全体的な講演内容に興味をもてましたか  
大いに興味をもてた 18 少し興味をもてた 16 あまりもてなかった 2  
全くもてなかった 0
- 項目4：今後のアクティブラーニングに活かせる内容でしたか  
大いに活かせる 15 少し活かせる 20 あまり活かさない 1 全く活かさない 0
- 項目5：今後このようなテーマ設定の研修会に参加したいと思いますか  
参加したい 26 参加しない 2 どちらとも言えない 8

項目6：今回のFD研修会に対して何かご意見がありましたらご記入ください

- ・楽しいが、二時間は長い。
- ・テスト期間中でなく、通常のと時期に開催してほしい。
- ・実際に学生相手に講義をしているビデオの提供等あるとうれしい。
- ・もう少し短い時間での開催をしてほしい。
- ・演習時間が短かったため企画計画が十分練れなかった。
- ・講師の質問の趣旨がわからない部分があった。
- ・アクティブラーニングの構造がわかって、大変よかった。
- ・この研修をきっかけにして、多くの先生の授業方法が学生参加型に変わればよいと思っている。そうすれば学生も学生参加授業に慣れ、考えながら授業を受けるようになると思う。

## 5. むすび

近年高まりつつある双方向型授業への関心の高さから、今年度の第二回のFD研修会のテーマが選ばれた。研修会終了後に行われたアンケートでは、テーマ設定、開催時期、同様の研修会への次回参加意欲について特に肯定的な意見が多く、アクティブラーニングに対する教員の関心の高さが鮮明に見られる。ほぼ全員の教員が何らかの形で今回の講義内容を授業で活かせると回答しており、内容としても極めて功を奏したものであったと推測される。

後半の演習では、実際に授業の冒頭に説明をする形式がとられ、自身の普段の授業展開を確認できただけでなく、周囲の教員の手法まで参考にすることができた。単に講義を聴くだけでなく、直接参加できたという点からも、本研修は高く評価されるものであろう。今回の例を参考に次回の研修テーマと講師を選ぶのがよいと考えられる。

## 4-3 平成27年度 第3回 FD研修会 実施報告

### 1 研修会概要

日時：平成27年12月4日（金） 15:00～16:30

場所：電子情報工学科棟5階 100番教室

講師：国立教育政策研究所 高等教育研究部総括研究官

（当プロジェクト高専研究調査委員） 濱中義隆氏

講演題目：KOSEN発 ”イノベーティブ・ジャパン” プロジェクト

「高専卒業生キャリア調査」結果について

司会 電気電子工学科 鈴木宏 教授

冒頭挨拶 総務主事 小澤志朗 教授

講師紹介 総務主事 小澤志朗 教授

参加者数 54名

## 2 講演概要

高専卒業生の調査結果について、主として高専卒の進路を中心に報告された。

進路の変化では、進学と就職の比率を過去30年間で比較した結果、最近では卒業生の約4割が進学している。しかし、大都市と地方でその比率は異なる。大都市では、専攻科より大学に進学する割合が大きい。成績の上位者の進学率は頭打ちであり、成績中位者の進学率が増加してきた。高専入学者の動機として、就職が有利というのが増えている。ただし、地方では、学費が安いという理由をあげている人が多い。高専本科卒業生の就職先として、1000人以上の企業と官公庁への就職は平均60%以上である。職種として、研究・技術職の割合が減ってきているが、技術職は8割以上である。よって高専本科没落説は支持されない。最近では成績下位層の大企業就職率が上昇してきた。非技術職へ就職した人は、若い世代で増加してきている。高専卒の多様性に焦点を当てることが今後重要である。今後の分析課題として、(1)本科卒業後に進学したものと職業キャリアの比較  
(2) 就職機会の地域間格差の影響の分析が必要である。

## 3 質疑応答

- (1) 質問 高専の位置づけと社会的専門性と高専の専門性はあっているのか  
回答 データから分析するしかないのでわからない。
- (2) 質問 非技術職(技能職)とキャリアの意味  
回答 技能職は、生産現場の職業(生産工程作業員)に該当  
キャリアのイメージは 今現在の職業と就職直後の職業の状況を表す
- (3) 質問 高専が没落していない理由と卒業直後の職種とその後の違いが大きくなってきた理由はどうしてか。  
回答 高専だけでなく大学と比較することも重要である。
- (4) 質問 大学進学率が高くなっている。学力の低い学生も就職している。職業的に実際には高専卒と大卒で違いがある。高専卒は得なのか損していないか。  
回答 大学院に行くと研究開発職が増える。その部分では学歴間の差はあるが、そのほかについては特にない。
- (5) 質問 勉強する意欲があるかないかの差が将来大きいのではないか  
回答 その辺のデータはないが、そんなに大きくはない。卒研を一生懸命やる学生は進学する傾向にある。進学した場合大学院までいかないとあまり意味がない。満足度は高専の成績とは関係ない。成績の高低と満足度の高低は一致しない。
- (6) 質問 成績と就職先に地域を入れたらどうなるか  
回答 地方の高専のほうが都市の大企業に就職する人が多い。成績との関係は不明である。  
高専によってかなり違う可能性はある。  
長野高専の特徴を今後調査していく。地元で就職は長野高専が多い。

#### 4 アンケート集計結果 (回収数 44 回収率 81.5%)

項目1: テーマ設定はいかがでしたか

1: 妥当であった 36人 2: 妥当ではなかった 1人 3: どちらとも言えない 7人

項目2: 第3回FD研修会としての開催時期は適当でしたか

1: 適当であった 23人 2: 適当ではなかった 11人 3: どちらとも言えない 10人

項目3: 全体的な講演内容に興味をもてましたか

1: 大いに興味をもてた 18人 2: 少し興味をもてた 20人

3: あまりもてなかった 5人 4: 全くもてなかった 1人

項目4: 今後のアクティブラーニングに活かせる内容でしたか

1: 大いに活かせる 6人 2: 少し活かせる 16人 3: あまり活かさない 12人

4: 全く活かさない 8人 無回答 2人

項目5: 今後このようなテーマ設定の研修会に参加したいと思いますか

1: 参加したい 28人 2: 参加しない 3人 3: どちらとも言えない 13人

項目6: 今回のFD研修会に対して何かご意見がありましたらご記入ください

- ・テーマはよいが内容が期待外れ。高専をひとくくりでは無理がある。
- ・質問が多く出てよかった。
- ・実務に使える研修会が良い
- ・本当に職業キャリアを詳細に理解してアンケートを実施しているのか。質疑を聞くに充分とは思えない。
- ・試験期間中の研修はやめてもらいたい。テスト中に会議、研修が集中しすぎ
- ・大テーマとしては非常に興味深い。ぜひ、企業や社会からの評価に関する客観的データなどが集まると高専の評価がより明確になるのではないかと思う。
  
- ・データ分析が中心だったため具体的イメージがつかみにくい。
  
- ・高専の全国的な進路状況がイメージできた。
- ・発表の軸となる技術系と技能系の区別が不明であった。
- ・特に土木系の各々での職種が含まれているのがアンケート対象者の判断となっているようで現場監督が技能系と回答するケースも考えられる。
- ・卒業後すぐに技術職となるものも多いのか、あるいはある年数技能職を経て技術職になるのか。
- ・経緯がわかるようになると参考になる。
- ・何はともあれ試験中のFDはやめていただきたい。採点で精一杯である。
- ・試験中の3回の研修は多い
- ・質疑でもあがっていたが卒業後のキャリア形成についての話かと思っていたので少し残念でした。
- ・長野高専の調査結果が知りたい。

## 5 教務委員会における改善報告

ここ数年間に渡り教務委員会では、教育に関する改善が議論されてきた。

平成 27 年度は、2 点

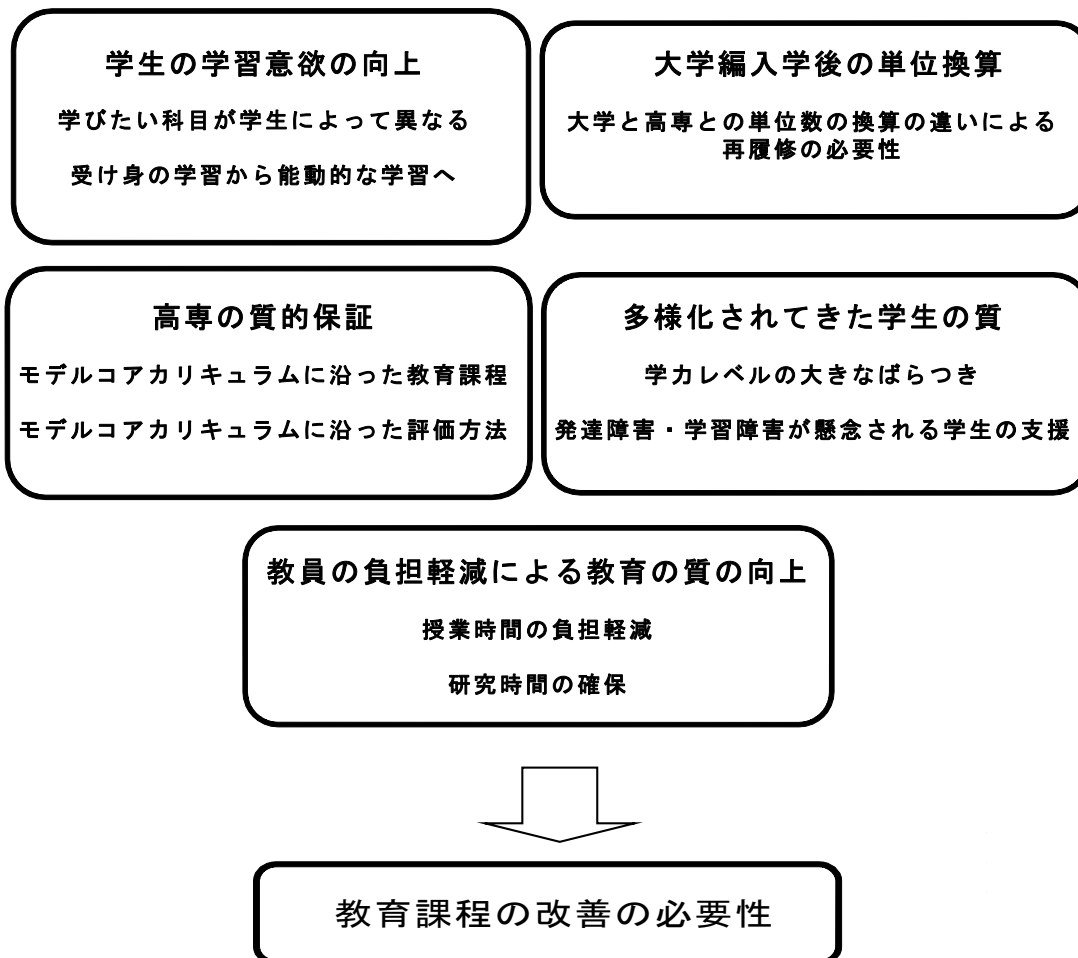
1. 教育課程改革の経緯
2. 学習教育目標達成度自己評価シートの改善

について改善が実施され、それらの経緯と改善点が報告されたため、本教育改善報告書に「教務委員会における改善」として報告する。

### 5-1 教育課程改革の経緯

【平成 24 年度】

- (1) 校長より、教務主事に対して、学生の自主的学習環境（学生が自ら学習したいという意欲がある科目の開設）の必要性、大学の単位数換算による不整合性（大学に編入学した学生が、高専と大学の単位数の換算方法の違いによる単位不足から、再度履修しなければいけない科目が生じること、）により、学生に不利な辞退が生じていること、教員の負担軽減を検討する必要があること等が生じていることからカリキュラムを検討するように指示があった。
- (2) 高専機構から、全国国立高専の卒業生の質的保証を満足するために、モデルコアカリキュラムに則った教育課程を設計するよう指示があり教育課程を見直す必要が生じた。
- (3) 本校に入学してくる新入生の学力レベルにおいて、ばらつきの幅が大きくなっていることが明らかとなっており、且つ、多様な学生が入学してくる実情を考慮したカリキュラムの設計が必要になってきた。



**【平成 25 年度】**

- (1) 4月3日(水)に開催された、第1回教務委員会において、学修単位科目の設置、選択科目の精選について検討することが決定された。
- (2) 9月3日(火)に開催された、第6回教務委員会において、平成26年度のカリキュラム編成方針について検討を行い、学科の意見を募ることになった。さらに、学修単位制度の導入について検討し、合わせて学科の意見を求めることにした。
- (3) 10月4日(金)に開催された、第7回教務委員会において、平成26年度の教育課程編成について引き続き検討した。また、長岡技術科学大学の E-learning 科目の単位認定について検討した。
- (4) 12月6日(金)に開催された、第9回教務委員会において、平成26年度教育課程について、以下のように決定した。

- ① 他の教育機関および他の団体の技能審査等で修得した科目を「特別学修」とすることにした。
- ② 一般科目に関して、平成26年度の4年生、5年生の教育課程は変更しないこととし、専門科目に関しては、学修単位科目の導入、選択・必修科目の区分は学科の判断に委ねることにした。



(5) 12月20日(金)に開催された、第10回教務委員会において、平成26年度教育課程について、以下のように決定した。

- ① 学科の専門科目について、学修単位科目、選択科目の表が確認された。
- ② 「数学演習」、「数学特論」は従前通り一般科目の自由選択科目とする。「応用物理Ⅱ」は、全学科必修とする。
- ③ 技能審査および資格試験の合格による単位修得について、4年生、5年生は従前通り科目への振替とし、平成26年度の3年生からは、科目の振替を行わず、特別学習の単位とする。

#### 【平成26年度】

(1) 5月27日(水)に開催された、第3回教務委員会において、平成27年度の教育カリキュラムについて以下のような内容を検討した。

- ① 平成27年度の教育課程の検討事項
  - (1) エンジニアリングデザインⅠのシラバス
    - ・学校主催のものづくり事業における活動と成果
    - ・基本は、モデルコアカリキュラムのⅦ-Cの共同教育のキャリアデザインの学修内容の到達目標に準ずる。
  - (2) エンジニアリングキャリアⅠのシラバス
    - ・技術者に必要な現場における素養を身につける研修(4年企業・現場見学等)
    - ・基本は、モデルコアカリキュラムのⅨの態度・志向性(人間力)の到達目標および到達レベル(通常の状態が発揮できること)に準ずる。
  - (3) エンジニアリングキャリアⅡのシラバス
    - ・技術者に必要な現場の実践または海外におけるコミュニケーションの実習(インターンシップ(海外を含む)、香港ⅣEとの交流等)
    - ・基本は、モデルコアカリキュラムのⅩの総合的な学習体験と創造的思考力の到達目標および到達レベル(通常の状態が発揮できること)に準ずる。
  - (4) 海外研修のシラバス
    - ・外国の教育機関・外国に進出している企業との国際交流活動または研修活動(本学が主催する海外研修、シンガポールポリテクの技術英語研修、外国からの研修留学生の対応)
    - ・基本は、モデルコアカリキュラムのⅨの態度・志向性(人間力)の到達目標および到達レベル(通常の状態が発揮できること)に準ずる。

(5) 特別学修単位のシラバス

- ① 各種資格・検定試験の成果
  - ・ 取得の資格内容、取得級、取得点数
- ② E-Learning 科目の確認
  - ・ どの科目の範囲まで認めるか
  - ・ 本校の必修科目との整合性
- ③ 他教育機関の科目履修の成果
  - ・ どの科目の範囲まで認めるか
  - ・ 本校の必修科目との整合性

- (2) 5月27日(水)に開催された第3回教務委員会において、他高等教育機関における単位取得について検討した
- (3) 7月9日(水)および9月10日(水)に開催された、第5回、第6回教務委員会において、平成26年度に開設する、エンジニアリングデザインⅠ、エンジニアリングキャリアⅠ、Ⅱ等について検討した。
- (4) 9月10日(水)に開催された、第6回教務委員会において、アクティブラーニングについて検討された。
- (5) 10月1日(水)に開催された、第7回教務委員会において、新規カリキュラム(エンジニアリングデザインⅠ、エンジニアリングキャリアⅠ、Ⅱ)について、各学科の意見が提出され、検討の結果、原案が承認された。
- (6) 10月1日(水)に開催された、第7回教務委員会において、平成27年度の教育課程編成について、以下のような、基本方針が検討され、検討の結果承認された。

1. 基本方針

- (1) 教育効果に配慮しつつ効率のある教育課程の構築
- (2) 4、5年生対象の必修科目の精選と選択科目の開設促進
- (3) 4、5年生対象の学修単位科目の開設促進

2. 検討案

- (1) 必修科目を厳選する。
- (2) 選択科目で対応できる科目は、選択科目で開設する。
- (3) 学修単位科目で対等できる科目は、学修単位科目で開設する。
- (4) 複数クラスでの開講を検討する。業務負担は同等とする。
- (5) 非常勤教員担当科目を精選する。
- (6) 4学年の教育課程の過密化解消を検討する。
- (7) 他学科との科目の連携を促進する。

- (7) 12月3日(水)、12月24日(水)に開催された、第9回、第10回教務委員会において、各学科の教育課程表が検討された。
- (8) 1月28日(水)に開催された第12回教務委員会において、平成27年度教育課程について、平成27年度進級・卒業に要件および選択科目の再試験ついて、および平成27年度履修の手引きについて検討され、承認された。

## 5-2 学習教育目標達成度自己評価シートの改善

### 1. 従来の学習教育目標達成度自己評価シートの概要

H26年度までの学習教育目標達成度自己評価シート（図1）は、学習教育目標毎に科目が掲載され、年度末に学生自身が科目毎の自己評価を行う手法であった。また、5年生は学習教育目標の大項目と細項目についても評価を記入する。

### 2. それらの欠点と課題

従来手法の欠点と課題は以下の通りである。

- ・ 5年間の蓄積として評価されていない
- ・ 大項目と細項目の評価に整合性がみられない場合がある
- ・ 年度末に各自評価を行うが、次年度への反映として活用されていない
- ・ 評価集計に手間がかかるため、業務負担となる

### 3. 改善案

平成26年度第8回教務委員会にて前記課題について意見交換が行われた。

同年第10回教務委員会にて、春日委員から、配付資料 No.5-1～-3に基づき「平成26年度学習教育目標達成度自己評価」の入力について、「紙媒体方式」から「Web入力方式」に変更して実施する案について説明があり、種々意見交換を行なった後、「成績入力」欄については、削除することとした。

学習教育目標達成度自己評価シート（図2）の改善内容は以下の通りである。

- ・ Excelにより電子データとして入力を学生自身で行ってもらう。
- ・ 各学年で、シートの最後に図3に示す「1年間を振り返り、自らの学習の様子を記入して下さい。」および「来年度への目標と課題を記述して下さい。」欄を設け、学習状況を確認し、学生自身がフィードバックを行え、継続的な点検を学習に反映できるようにする。
- ・ 各学習教育目標の数値は5年間の積み上げ方式でグラフ化することで、学生自身が各学習目標の達成状況を確認できるようにする。
- ・ グラフは、全学習時間に対する学習教育目標毎の割合（図3）と、学習教育目標毎の自己達成度の割合（図5）をグラフ化する。図3は学習目標が全体の学習時間に対してどのくらい学習時間があったかを示すことができ、図5は自己評価を示すことができる。
- ・ 各テストの成績を任意で入力する欄を作成し、成績管理にも使えるようにする。
- ・ 5年間学生自身がファイルを管理することで、学習達成度を常に確認できるようにする。

### 4. 改善案の実施

学習教育目標達成度自己評価シートの実施については、5年生は卒業前の特別編成授業中までに担任に提出する。担任から教務係へ提出された後、教務委員会で各学生の達成度を集計し、学習教育目標達成度自己評価に対する報告書として取りまとめる。

4年生以下については、3月の成績が決定した後に自己評価を行い、4月下旬に担任へ提出する。担任が保管し、学生面談等で学生指導に活用する。

学習・教育目標 達成度自己評価シート

←系統図, シラバスはこちら

(平成25年度 電気電子工学科 5年生用)

学籍番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

http://www.nagano-nct.ac.jp/course/evtl/11abura11/index.php

学習・教育目標		授業科目名	単位数	必須、選択などの別	学年・学期	細項目に 関する学 習保証時 間	細項目全 体に占め る割合	自己評価 (達成度を1~5の5段階で評 価) ※5が最も達成度が高い														
大項目	細項目							科目毎	細項目	大項目												
A	世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身か社会に貢献できる役割が何かを討議し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。	社会科学および人文科学に興味を持ち、関連知識を理解し身につけられる。また、自分自身と他人との関わりや価値観の相違について理解できる。	国語ⅠA	2	必修	1・通年	45	12.5														
		国語ⅠB	2	必修	1・通年	45	12.5															
		国語Ⅱ	2	必修	2・通年	45	12.5															
		国語Ⅲ	2	必修	3・通年	45	12.5															
		世界史	2	必修	1・通年	45	12.5															
		日本史	2	必修	2・通年	45	12.5															
		現代社会	2	必修	3・通年	45	12.5															
		芸術	1	必須	1・前/後期	22.5	6.3															
		国語Ⅳ	1	必修	4・後期	22.5	6.3															
		文学	1	必修選択	4・前期																	
		東洋史	1	必修選択	4・前期																	
		西洋史	1	必修選択	4・後期																	
		日本社会史	1	必修選択	4・前期																	
		日本文化史	1	必修選択	4・後期																	
		経済学A	1	必修選択	4・前期																	
		経済学B	1	必修選択	4・後期																	
		人文・社会科学総合	1	必修選択	4・後期																	
		法学A	1	必修選択	4・前期																	
		法学B	1	必修選択	4・後期																	
		心理学	1	必修選択	4・後期																	
ドイツ文化論	1	必修選択	4・前期																			
ドイツ語I	1	必修選択	4・後期																			
英語コミュニケーションスキルA	2	必修選択	5・通年					5	4	3	2	1										
英語コミュニケーションスキルB	2	必修選択	5・通年					5	4	3	2	1										
英語コミュニケーションスキルC	2	必修選択	5・通年					5	4	3	2	1										
英語コミュニケーションスキルD	2	必修選択	5・通年					5	4	3	2	1										
ドイツ語II	2	必修選択	5・通年					5	4	3	2	1										
中国語	2	必修選択	5・通年					5	4	3	2	1										
ハンガール	2	必修選択	5・通年					5	4	3	2	1										
小計							360															
	健全な心身の発達について理解して行動でき、考えを述べるができる。	保健・体育I	2	必修	1・通年	45	26.0															
		保健・体育II	2	必修	2・通年	45	26.0															
		保健・体育III	2	必修	3・通年	45	26.0															
		スポーツI	1	必修	4・前期	22.5	16.0															
		スポーツII	1	必修	5・前期	22.5	16.0	5	4	3	2	1										
		スポーツIII	1	必修選択	4・後期	(22.5)																
		小計					295															
B	自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。(技術者倫理)	自然や社会の問題に関心を持ち、技術が果たしてきた役割を理解し論述できる。	倫理学	2	必修	4・通年	22.5	100.0														
		環境や社会における課題を理解し論述できる。	倫理学	2	必修	4・通年	22.5	100.0														
		小計						22.5														
		小計						22.5														
		小計						22.5														
C	機械、電気電子、情報または土木の工学分野(以下「基盤となる工学分野」という。)に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。	数学、自然科学において、事象を理解するとともに、技術士第一次試験相当の学力を身につける。	基礎数学I	2	必修	1・通年	45	5.5														
			基礎数学II	2	必修	2・通年	45	5.5														
			基礎数学III	2	必修	3・通年	45	5.5														
			基礎数学IV	2	必修	4・通年	45	5.5														
			基礎数学V	2	必修	5・通年	45	5.5														
			基礎数学VI	2	必修	1・通年	45	5.5														
			基礎数学VII	2	必修	2・通年	45	5.5														
			基礎数学VIII	2	必修	3・通年	45	5.5														
			基礎数学IX	2	必修	4・通年	45	5.5														
			基礎数学X	2	必修	5・通年	45	5.5														
			基礎数学XI	2	必修	1・通年	45	5.5														
			基礎数学XII	2	必修	2・通年	45	5.5														
			科学選修・実験	1	必修	2・前期	22.5	2.7														
			総合選修日本	2	必修	3・通年	45	5.5														
			総合選修外国	2	必修	3・通年	45	5.5														
			選修新社I	1	必修	3・後期	22.5	2.7														
			選修代議II	1	必修	3・前期	22.5	2.7														
			応用物理I	2	必修	3・通年	45	5.5														
			応用物理II	2	必修	4・通年	45	5.5														
			フットボール概論	1	必修	4・前期	22.5	2.7														
			ペクトル概論	1	必修	4・後期	22.5	2.7			5	4	3	2	1							
			確率統計I	1	必修	5・後期	22.5	2.7			5	4	3	2	1							
			確率統計II	1	必修	5・前期	22.5	2.7			5	4	3	2	1							
			数値計算法	1	必修	5・後期	9	1.1			5	4	3	2	1							
工学基礎実習	1	必修	4・前期	22.5	2.7																	
数学特論	1	必修選択	4・後期																			
数学実習	1	必修選択	4・前期																			
物理学特論	1	必修選択	4・前期																			
物理学実習	1	必修選択	4・後期																			
理化学実習	1	必修選択	4・前期																			
小計							616															
	工学に必要な情報技術に関するリテラシーを身につけ、使用できる。	情報処理実習I	2	必修	1・通年	45	25.0															
		情報処理実習II	2	必修	3・通年	45	25.0															
		プログラミング言語I	2	必修	4・通年	45	25.0															
		マイクロコンピュータ	2	必修	4・通年	45	25.0															
		情報処理応用A	1	必修選択	4・前期	(22.5)																
		情報処理応用B	1	必修選択	4・後期	(22.5)																
		小計					180															

図1 H26年度まで利用した学習教育目標達成度自己評価シートの一部

大項目	細項目	授業科目名	単位数	必修・選択	履修・学年単位	年次	学期	合計時間数	学習・教育目標の割合	履修授業時間	1週間当たりの家庭学習平均時間	自己評価達成度を5段階で評価	前期中間成績	前期期末成績	後期中間成績	学年末成績			
A	世界の政治経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討議し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。	国語ⅠA	2	必修	履修	1	通年	45	100	45									
		国語ⅠB	2	必修	履修	1	通年	45	100	45									
		国語Ⅱ	2	必修	履修	2	通年	45	100	45									
		国語Ⅲ	2	必修	履修	3	通年	45	100	45									
		世界史	2	必修	履修	1	通年	45	100	45									
		日本史	2	必修	履修	2	通年	45	100	45									
		現代社会	2	必修	履修	3	通年	45	100	45									
		芸術	1	必修	履修	1	半期	22.5	100	22.5									
		国語Ⅳ	1	必修	履修	4	半期	22.5	100	22.5									
		日本文学	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0									
		日本社会史	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0									
		日本文化史	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0									
		東洋史	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0									
		西洋史	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0									
		経済学	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0									
		ドイツ文化論	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0									
		法学	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0									
		心理学	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0									
		ドイツ語	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0									
		英語Ⅰ	2	必修選択	履修	5	通年	45	60	0									
		英語Ⅱ	2	必修選択	履修	5	通年	45	60	0									
		英語Ⅲ	2	必修選択	履修	5	通年	45	60	0									
		英語Ⅳ	2	必修選択	履修	5	通年	45	60	0									
		ドイツ語	2	必修選択	履修	5	通年	45	100	0									
		中国語	2	必修選択	履修	5	通年	45	100	0									
		ハンガール	2	必修選択	履修	5	通年	45	100	0									
		A-1合計										360							
		2	健全な心身の発達について理解して行動でき、考えを述べることができる。	保健・体育Ⅰ	2	必修	履修	1	通年	45	100	45							
				保健・体育Ⅱ	4	必修	履修	2	通年	90	100	90							
				保健・体育Ⅲ	2	必修	履修	3	通年	45	100	45							
				スポーツⅠ	1	必修	履修	4	半期	22.5	100	22.5							
				スポーツⅡ	1	必修	履修	5	半期	22.5	100	22.5							
A-2合計										225									
A合計										585									
B	自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。(技術者倫理)	倫理学	2	必修	履修	4	通年	45	50	22.5									
		B-1合計										22.5							
		倫理学	2	必修	履修	4	通年	45	50	22.5									
		B-2合計										22.5							
		B合計										45							
51	機械電気電子情報または土木の工	数学自然科学について、事象を理解すると	英語数学A	2	必修	履修	1	通年	45	100	45								
		英語数学B	4	必修	履修	1	通年	90	100	90									

図2 H26年度からの学習教育目標達成度自己評価シートの一部

1年間を振り返り、自らの学習の様子を記入して下さい。	良かった点	
	悪かった点	
来年度への目標と課題を記述して下さい。	目標	
	課題	

図3 自己評価シートの各学年の最後の記入欄

## 学習教育目標毎の達成度の割合

■ A ■ B ■ C ■ D ■ E ■ F ■ G

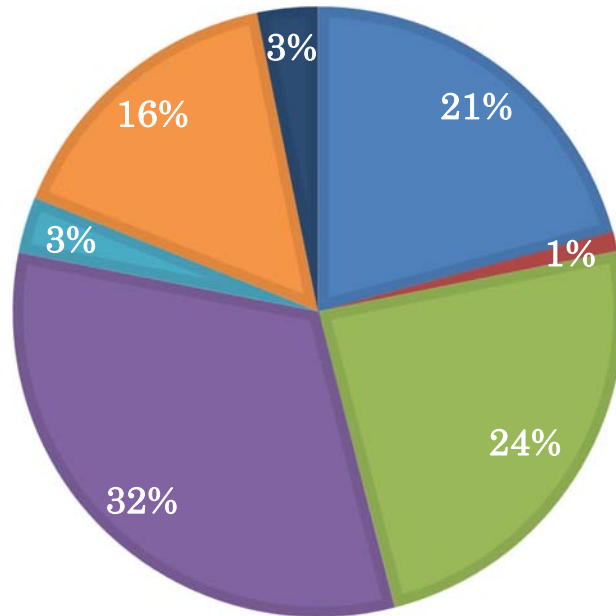


図4 全学習時間に対する学習目標毎の達成度の割合

## あなたの学習教育目標毎の自己達成度

■ 1年生 ■ 2年生 ■ 3年生 ■ 4年生 ■ 5年生

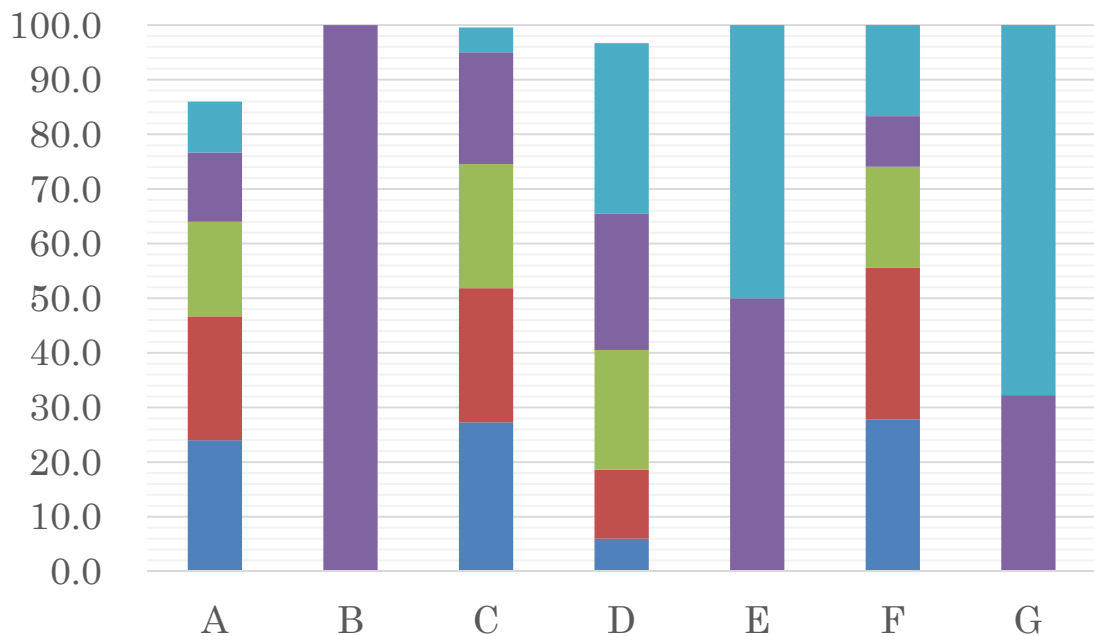


図5 学習教育目標毎の自己達成度の割合

## 5. まとめ

学習教育目標の自己達成度を電子化により視覚化することで、各自の達成度を認識しやすくなった。また、学生が5年間保管し、各学年において評価シートの最後に、振り返りと来年度の目標を記入することにより、学習状況を確認できる体制がとれ、学生自身のフィードバックが行え、継続的な点検を今後の学習に反映・活用できるようになった。

今後、このシートをさらに有効活用する方法を検討する必要がある。

## 6 平成 28 年度の活動に向けた各種委員会等への提言

平成 27 年度 各種委員会の活動状況の点検結果、学生との意見交換会、外部評価、卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査からの改善内容等の意見をもとに、各種委員会等への提言を以下に示す。

### 1. 教務委員会への提言

- ① 時間割編成作業について現状のままでいいのかさらに検討が必要。
- ② 専攻科と本科の連携した教育体制について議論が必要。
- ③ アクティブラーニングについてさらに継続審議が必要。
- ④ アクティブラーニングの推進（学外実習、選択科目の効果的導入、寮内での高学年が低学年をサポートするシステムの活性化、学び方（方法論）の獲得）（参与会より）。
- ⑤ インターシップの期間や対象学年を広げることに関する検討（参与会より）。
- ⑥ 同僚や他学生と比較して、語学やコミュニケーションおよび物事を表現するプレゼンテーション能力が低い傾向を示しており、学習・教育目標の F の充実が望まれる（平成 26 年度 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査実施結果の分析より）。
- ⑦ 対応力、判断力、状況理解力、パイオニア精神、リーダーシップなど人間力や社会性に対する不足を指摘する意見もあるこれらの能力向上の充実が望まれる（平成 26 年度 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査実施結果の分析より）。
- ⑧ 工学概論的な共通科目の設置や、学んできた専門分野以外にも様々な分野の知識が要求されている。融合複合の重要性を感じ、学習・教育目標の D3 の充実が望まれる（平成 26 年度 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査実施結果の分析より）。
- ⑨ 技術士に関する啓蒙活動や情報提供等（講習会）を継続的、積極的に実施していく必要がある（平成 26 年度 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査実施結果の分析より）。
- ⑩ 新形式での学習・教育目標の達成度自己評価は、今回が 4 回目であり、今後数年実施し、その結果について、教務委員会と専攻科運営委員会で連携して総括を行う（学習・教育目標の達成度に関する調査報告書より）。
- ⑪ 学習・教育目標の達成度自己評価の分析は、本科 5 年生と専攻科 2 年生だけでなく、各学年についても行い、その結果を活用して本来の目的である授業改善につなげていく（学習・教育目標の達成度に関する調査報告書より）。
- ⑫ 新教育課程について、特に 4 年生に対して変更目的や趣旨などが伝わっていない感じがした。学修単位の導入に関して学生は不満を持っているようで、理解してもらうために教務委員会を中心に学生に対して丁寧の説明する必要があると感じた（学生との意見交換会より）。

### 2. 学生支援委員会への提言

- ① 教務委員会と連携して、低学年のキャリア教育を充実させる。
- ② 問題行動の未然防止
- ③ 通生向けの勉強会、国際交流企画などアイデアが出てきて良かった。是非学生会で検討してもらいたい（学生との意見交換会より）。
- ④ 「次回は事務部への要望を聞いてみたい」との意見があった（学生との意見交換会で学生課長より）。
- ⑤ 低学年におけるアルバイト実施について緩和してほしい（学生との意見交換会より）。

### 3. 寮務委員会への提言

- ① 登校カードの周知の徹底および活用方法の検討
- ② 摂食率アップを目的とした、摂食率チェックシステムの効率的な活用方法の検討
- ③ 違反指導の厳重化



#### 4. 専攻科運営委員会への提言

- ① 学習教育目標達成度調査のまとめと分析をさらに強化する。
- ② 専攻科と本科の連携した教育体制について議論が必要。
- ③ アクティブラーニングについてさらに継続審議が必要。
- ④ 同僚や他学生と比較して、語学やコミュニケーションおよび物事を表現するプレゼンテーション能力が低い傾向を示しており、学習・教育目標の F の充実が望まれる（平成 26 年度 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査実施結果の分析より）。
- ⑤ 対応力、判断力、状況理解力、パイオニア精神、リーダーシップなど人間力や社会性に対する不足を指摘する意見もあるこれらの能力向上の充実が望まれる（平成 26 年度 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査実施結果の分析より）。
- ⑥ 工学概論的な共通科目の設置や、学んできた専門分野以外にも様々な分野の知識が要求されている。融合複合の重要性を感じ、学習・教育目標の D3 の充実が望まれる（平成 26 年度 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査実施結果の分析より）。
- ⑦ 技術士に関する啓蒙活動や情報提供等（講習会）を継続的、積極的に実施していく必要がある（平成 26 年度 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査実施結果の分析より）。
- ⑧ 新形式での学習・教育目標の達成度自己評価は、今回が 4 回目であり、今後数年実施し、その結果について、教務委員会と専攻科運営委員会で連携して総括を行う（学習・教育目標の達成度に関する調査報告書より）。
- ⑨ 学習・教育目標の達成度自己評価の分析は、本科 5 年生と専攻科 2 年生だけでなく、各学年についても行き、その結果を活用して本来の目的である授業改善につなげていく（学習・教育目標の達成度に関する調査報告書より）。
- ⑩ 学生との意見交換会より以下の要望があった。
  - ・研究室を使用できる時間が短い（専攻科棟共用室利用時間の明確化が必要）。
  - ・プリンタが十分作動しない、暖房が効きにくいなど、設備に不満がある
  - ・休講・補講の連絡を確実にしてほしい
  - ・印刷物の配布資料が多い（Blackbord などを活用できないか検討する）。
  - ・進路に関する学校側の準備が遅い、また、面接練習や説明会などを拡充してほしい

#### 5. 研究支援委員会

- ① 外部資金獲得に向けて一層の努力を行う。[外部資金の継続的な獲得（参与会より）]

#### 6. 広報委員会

- ① 従来の広報活動（ホームページの充実、科学イベントの実施、県内の科学イベント・産業フェアへの参加協力、出前授業、刊行物の作成、ノベルティの作成）を継続し、より充実したものにしていく。
- ② 予算減に対する対応の検討。

#### 7. 国際交流センター

- ① 従来の国際交流活動を継続し、より充実したものにしていく。

#### 8. 教育改善委員会

- ① エビデンスの有効活用と保管の電子化の改善について
- ② 科目別自己評価シートに関する改善方法の点検
- ③ 学習・教育目標の達成度に関する調査の分析・評価の点検
- ④ 第Ⅱ期中期目標・計画の点検
- ⑤ 授業改善システムの評価と点検

#### 9. 第 3 者評価対応委員会

- ① JABEE 審査実施に向けての自己点検書作成・資料作りと審査実施

平成 26 年度学習教育目標達成度自己評価に対する  
報告書

長野高専

教務委員会

## 1. 目的

1年間、または5年間で学習した科目を自己評価することにより、学習教育目標と科目との関連を理解しつつ、学習教育目標の達成度を点検・評価し、その後の学習に活かすことを目的とする。

また、本報告書は、卒業する学生の5年間の学習教育目標の達成度について、その結果を示すものである。

## 2. 実施方法

実施期間：平成27年2月2日～3月3日（5年生）

入力方法：長野高専ホームページのシラバスから評価シートをダウンロードして回答する。

提出先：学生課教務係

## 3. 結果の詳細

### 3.1 連絡文書

以下、連絡文書を示す。

平成 27 年 2 月 2 日

学級担任 各位

教務主事

## 平成 26 年度 学習達成度自己評価シートの実施について（依頼）

日頃、教育改善についてご協力をいただきましてありがとうございます。

さて、長野高専のより良い教育を目指して、下記のとおり学生による学習達成度自己評価シートを実施いたします。お忙しいところ恐縮ですが、各クラスの学生へのご指導をお願い申し上げます。

### 1. 実施目的

学生自身が学習教育目標を意識し、学習の自己達成度を評価することで、自己の学習改善につなげるため。

### 2. 実施方法

- 1) 自己評価シート（Excel フォーマット）は該当する学年クラスのファイルを、長野高専のシラバスのホームページ（<http://syllabus.nagano-nct.ac.jp/>）から、学生自身にダウンロードさせて下さい。
- 2) 本シートは 5 年間継続して使用します。個人情報が含まれますので、5 年間紛失しないように各自の責任において大切に保管するようにご指導下さい。
- 3) 青色のセルの家庭学習時間ならびに各科目における自己達成度を必ず選択させて下さい。
- 4) 各学年（5 年生は 5 年間）の学習の自己評価ならびに次年度への目標を記述させて下さい。
- 5) 定期試験の点数の入力は任意です。（印刷はされません）

### 3. 実施時期

1～4 年生は各学年のシートを印刷もしくは電子データにて平成 27 年 4 月 17 日(金)までに新しいクラスの担任へ提出するようご指導下さい。新担任の先生方は、4 月以降に印刷もしくは電子データのいずれかを学生へご指示下さい。

5 年生は本シートを電子データにて平成 27 年 3 月 3 日(火)までに担任へ提出させて下さい。

### 4. 教育改善

- 1) 5 年生につきましては、平成 27 年 3 月 27 日（金）までに各クラスで取りまとめ、教務係までご提出下さい。個人情報が含まれますので、USB メモリもしくは校内メールをご利用下さい。
- 2) 1～4 年生につきましては、個人面談資料や日頃の学習指導に用いて下さい。特に学修単位科目につきましては家庭学習時間が十分確保するようにご指導下さい。

平成 27 年 2 月 2 日

学生 各位

教務主事

## 平成 26 年度 学習達成度自己評価シートの実施について（依頼）

自己の学習改善につなげるため、以下の通り学習改善達成度自己評価シートに自己評価ならびに成績を記入するようにお願いいたします。

### 1. 実施目的

学生自身が学習教育目標を意識し、学習の自己達成度を評価することで、自己の学習改善につなげるため。

### 2. 実施方法

- 1) 自己評価シート（Excel フォーマット）は該当する学年クラスのファイルを、長野高専のシラバスのホームページ（<http://syllabus.nagano-nct.ac.jp/>）からダウンロードして下さい。
- 2) 本シートは 5 年間継続して使用するものです。個人情報が含まれますので、5 年間紛失しないように各自の責任において大切に保管して下さい。
- 3) 家庭学習時間ならびに自己達成度（いずれも青セル）を選択して下さい。セルをクリックすると選択できます。学年毎の取りまとめならびに次年度の目標等を記入して下さい。
- 4) 自己達成度は 5 段階（1～5）により評価して下さい。0 は科目の未選択を意味しますので、選択していない科目は 0 または空欄にして下さい。
- 5) 緑セルは定期テストの入力欄です。任意ですので、日頃の成績のセルフチェックに役立てて下さい。（印刷はされません）
- 6) 統計データ図も参照し、学習教育目標毎の達成度をチェックして下さい。

### 3. 提出期限

1～4 年生は各学年のシートを印刷もしくは電子データにて平成 27 年 4 月 17 日(金)までに新しいクラスの担任へ提出して下さい。5 年生は本シートを電子データにて平成 27 年 3 月 3 日(火)までに担任へ提出して下さい。

## 長野高専 学習教育目標達成度自己評価シート

・本シートは**日頃の学習のセルフチェックを行うもの**です。1週間の家庭学習時間が十分確保できるように日頃から勉学に取り組むように心がけて下さい。

・学習教育目標達成度自己評価シートは長野高専HPよりダウンロードできます。各学科シラバスのページから入手して下さい。

・本シートは5年間継続して使用するものです。個人情報が含まれますので、5年間紛失しないように各自の責任において大切に保管して下さい。

【提出方法】 1～4年生は各学年のシートを印刷もしくは電子データにて**4月下旬までに新しいクラスの担任へ提出**。

5年生は本シートを電子データにて**3月の特別編成期間中までに担任へ提出**。

【記入方法】 家庭学習時間ならびに自己達成度(いずれも**青セル**)を選択して下さい。セルをクリックすると選択できます。学年毎の取りまとめならびに次年度の目標等を記入して下さい。

自己達成度は5段階(1～5)により評価して下さい。0は科目の未選択を意味しますので、選択していない科目は0または空欄にして下さい。

**緑セル**は定期テストの入力欄です。任意ですので、日頃の成績のセルフチェックに役立てて下さい。(印刷はされません)

統計データ図も参照し、学習教育目標毎の達成度をチェックして下さい。

### 3. 2 評価シート

※青セルは必修入力です。		学籍番号		氏名		任意で定期試験の成績を入力し、日役立て下さい。										
大項目	細項目	授業科目名	単位数	必修・選択	履修・学修単位	年次	学期	合計時間数	学習・教育目標の割合	履修授業時間	1週間当たりの家庭学習平均時間	自己評価達成度を5段階で評価	前期中間成績	前期期末成績	後期中間成績	
A	世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身か社会に貢献できる役割か?何かを討議し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。	社会科学および人文科学に興味を持ち、関連知識を理解し身につけられる。また、自分自身と他人との関わりや価値観の相違について理解できる。	国語ⅠA	2	必修	履修	1	通年	45	100	45					
		国語ⅠB	2	必修	履修	1	通年	45	100	45						
		国語Ⅱ	2	必修	履修	2	通年	45	100	45						
		国語Ⅲ	2	必修	履修	3	通年	45	100	45						
		世界史	2	必修	履修	1	通年	45	100	45						
		日本史	2	必修	履修	2	通年	45	100	45						
		現代社会	2	必修	履修	3	通年	45	100	45						
		芸術	1	必修	履修	1	半期	22.5	100	22.5						
		国語Ⅳ	1	必修	履修	4	半期	22.5	100	22.5						
		日本文学	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0						
		東洋史	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0						
		西洋史	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0						
		日本社会史	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0						
		日本文化史	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0						
		経済学	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0						
		人文・社会科学総合	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0						
		法学	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0						
		心理学	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0						
		ドイツ文化論	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0						
		ドイツ語Ⅰ	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0						
	英語コミュニケーションⅠ(英米)	2	必修選択	履修	5	通年	45	100	0							
	英語コミュニケーションⅡ(英米)	2	必修選択	履修	5	通年	45	100	0							
	英語コミュニケーションⅢ(英米)	2	必修選択	履修	5	通年	45	100	0							
	ドイツ語Ⅱ	2	必修選択	履修	5	通年	45	100	0							
	中国語	2	必修選択	履修	5	通年	45	100	0							
	ハンガール	2	必修選択	履修	5	通年	45	100	0							
	A-1合計															
											360					
	2	健全な心身の発達について理解して行動でき、考えを述べることができるか?できる。	保健・体育Ⅰ	2	必修	履修	1	通年	45	100	45					
			保健・体育Ⅱ	4	必修	履修	2	通年	90	100	90					
保健・体育Ⅲ			2	必修	履修	3	通年	45	100	45						
スポーツⅠA			1	必修	履修	4	半期	22.5	100	22.5						
スポーツⅡ			1	必修	履修	5	半期	22.5	100	22.5						
スポーツⅠB			1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0						
A-2合計																
A合計										225						
										585						
B	1	自然環境や社会の問題に関心をもち、技術者としての役割と責任について考えを述べ、素養を持つ。(技術者倫理)	自然や社会の問題に関心をもち、技術者としての役割と責任について考えを述べ、素養を持つ。(技術者倫理)	倫理学	2	必修	履修	4	通年	45	50	22.5				
			B-1合計										22.5			
	2	環境や社会における課題を理解し論述できる。	倫理学	2	必修	履修	4	通年	45	50	22.5					
		B-2合計											22.5			
B合計												45				
C	1	機械、電気電子、情報または土木の工学分野(以下「基盤となる工学分野」という。)に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。	基礎数学A	2	必修	履修	1	通年	45	100	45					
			基礎数学B	4	必修	履修	1	通年	90	100	90					
			微分積分Ⅰ	4	必修	履修	2	通年	90	100	90					
			線形代数Ⅰ	2	必修	履修	2	通年	45	100	45					
			化学Ⅰ	2	必修	履修	1	通年	45	100	45					
			化学Ⅱ	2	必修	履修	2	通年	45	100	45					
			物理Ⅰ	2	必修	履修	1	通年	45	100	45					
			物理Ⅱ	2	必修	履修	2	通年	45	100	45					
			科学演習・実験	1	必修	履修	2	半期	22.5	100	22.5					
			微分積分ⅡA	2	必修	履修	3	通年	45	100	45					
			微分積分ⅡB	2	必修	履修	3	通年	45	100	45					
			確率統計Ⅰ	1	必修	履修	3	半期	22.5	100	22.5					
			線形代数Ⅱ	1	必修	履修	3	半期	22.5	100	22.5					
			応用物理Ⅰ	2	必修	履修	3	通年	45	100	45					
			応用物理Ⅱ	2	必修	履修	4	通年	45	100	45					
			フーリエ解析	1	必修	履修	4	半期	22.5	100	22.5					
			ベクトル解析	1	必修	履修	4	半期	22.5	100	22.5					
			確率統計Ⅱ	1	必修	履修	5	半期	22.5	100	22.5					
			複素関数論	1	必修	履修	5	半期	22.5	100	22.5					
			数学特論	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0					
	数学演習	1	必修選択	履修	4	半期	22.5	100	0							
	地球科学	1	必修	履修	4	半期	22.5	100	22.5							
	C-1合計										810					
	2	工学に必要な情報技術に関するリテラシーを身につけ、使用できる。	情報処理基礎	2	必修	履修	1	通年	45	100	45					
			プログラミング言語Ⅰ	2	必修	履修	3	通年	45	100	45					
			プログラミング言語Ⅱ	2	必修	履修	4	通年	45	100	45					
マイクロコンピュータ			2	必修	履修	4	通年	45	100	45						
情報処理応用			1	自由選択	履修	4	半期	22.5	100	0						
C-2合計									180							
C合計										990						





G	1	習得した工学分野の知識を基に課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。	自己の能力を把握し、その向上のために自主的に学習を遂行できる。	卒業研究	8	必修	履修	5	通年	180	40	72							
		G-1合計											72						
	2	実務訓練等を通して基礎となる工学分野に関連した業務の概要を理解できる。	システム工学	1	必修	履修	5	半期	22.5	100	22.5								
			実務訓練	2	必修選択	履修	4	通年	45	100	0								
			G-2合計											22.5					
G合計												94.5							

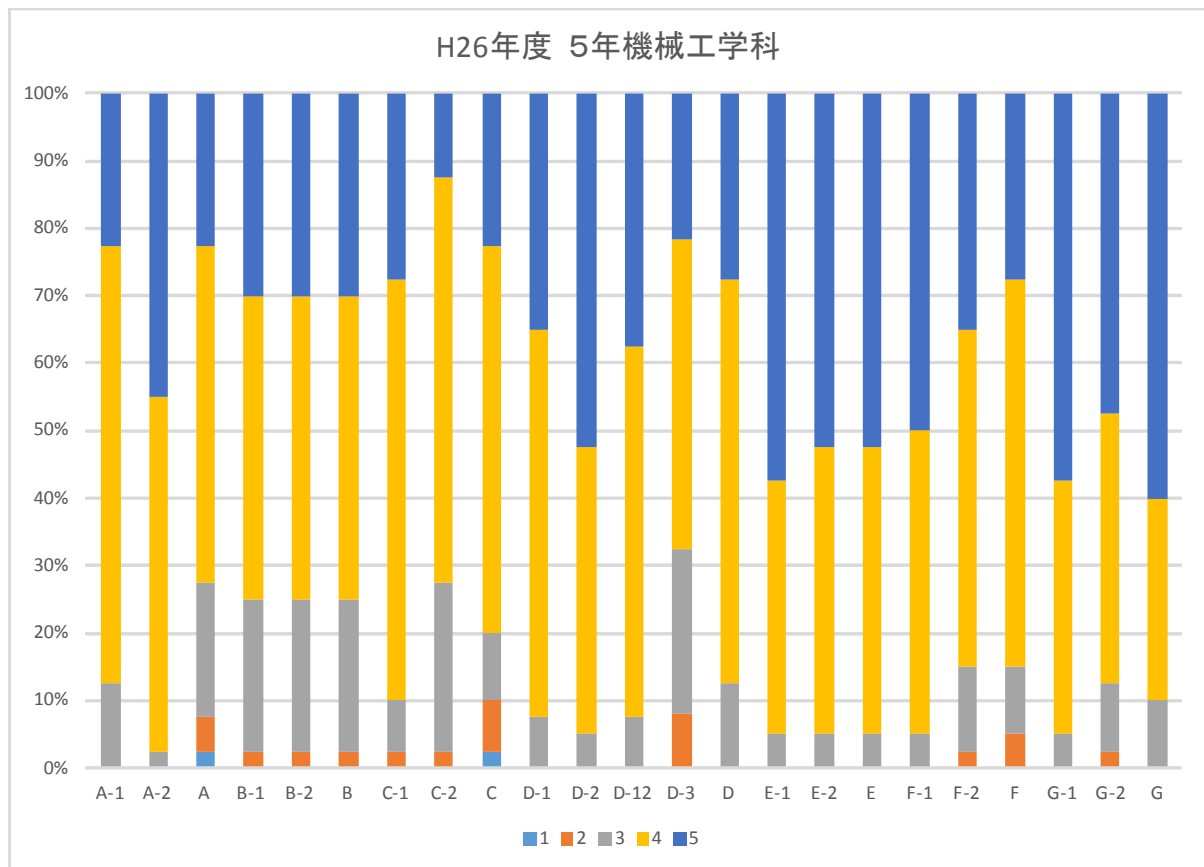
5年間を振り返り、自らの学習の様子を記入して下さい。	良かった点	
	悪かった点	

#### 4. 結果

学習教育目標に対する学生の自己達成度評価の頻度分布を学科ごとに示す。各色の番号は、達成度を示す。各棒グラフの上から5、4、3、2、1の順番である。数値のレベルは、おおよそ、以下の通りである。

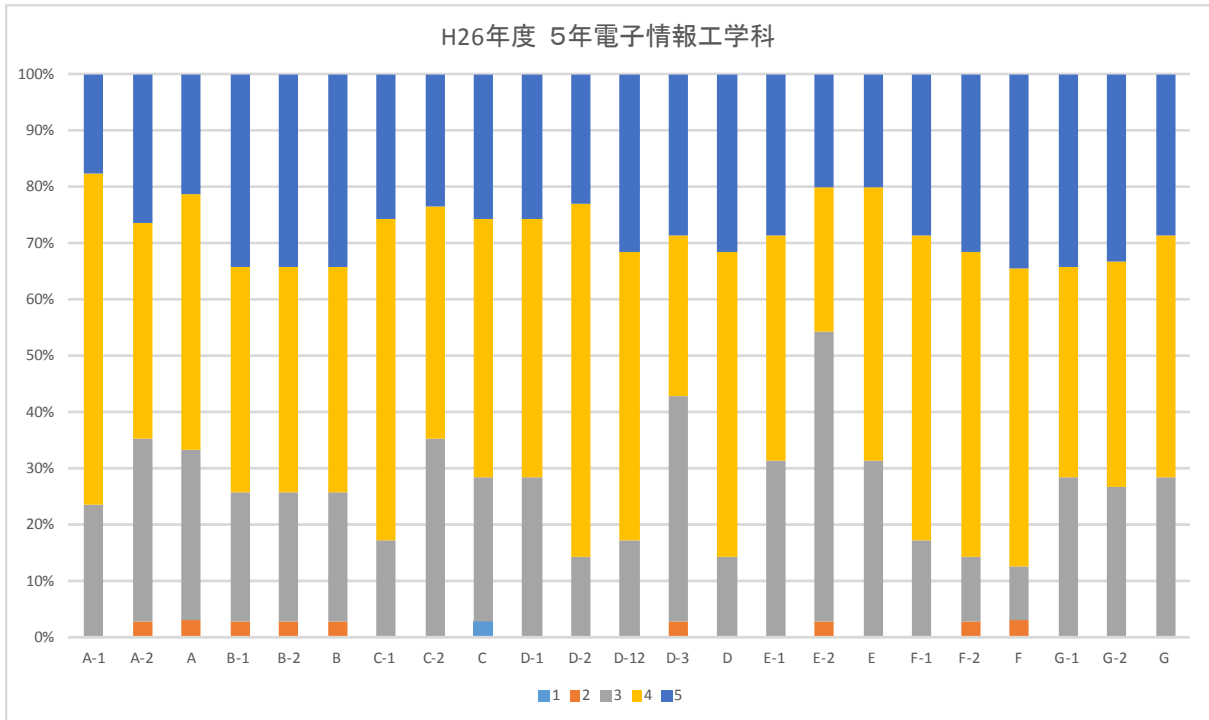
5：十分達成できた、4：達成できた、3：ほぼ達成できた、2：あまり達成できていない、1：達成できていない。

##### (1) 機械工学科

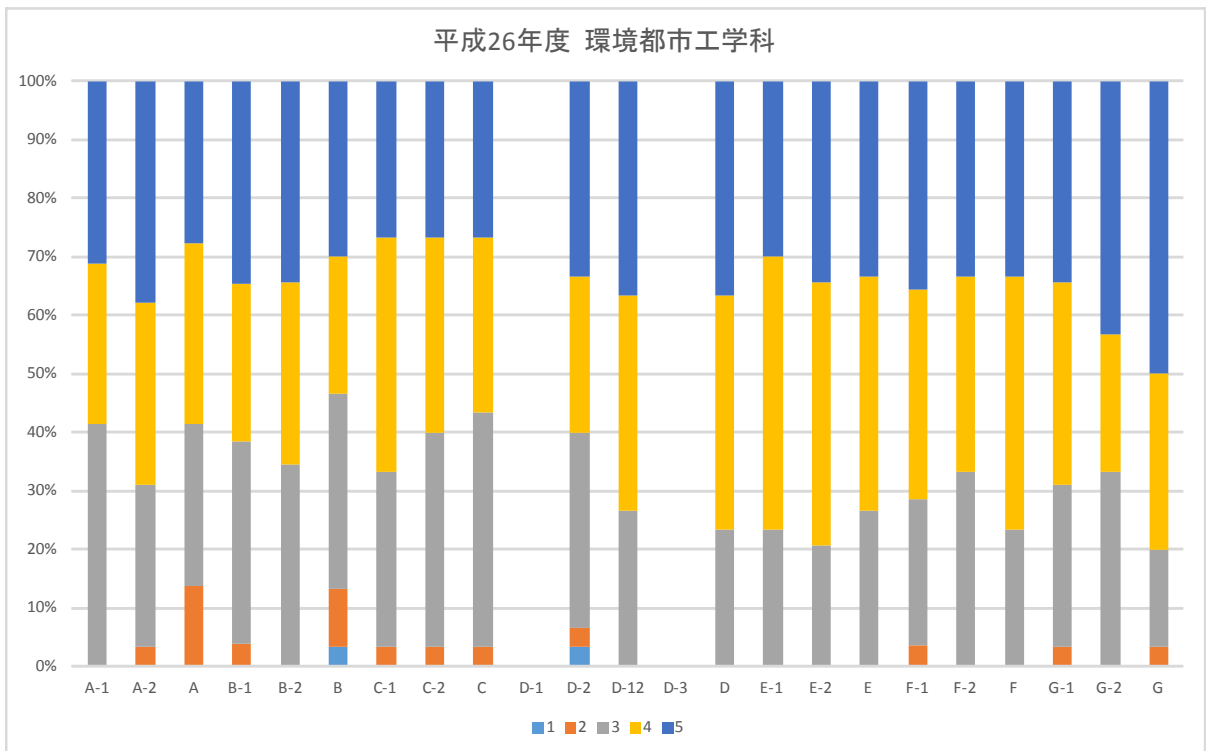




(4) 電子情報工学科



(5) 環境都市工学科



## 5. 考察

### 5. 1 機械工学科

(1) 全ての学習教育目標の細項目に関して、90%以上がほぼ達成できたと評価している。あまり達成できていない細項目は、学習教育目標 A、C および F にわずか見られた。ただし、10%以下である。よって、ほとんどの学生が達成できたと考えている。

(2) 十分達成できたと評価した項目は、A-2、D-2、E-1、E-2、F-1、G-1、および G-2 の項目で 50%に近く満足していることが分かる。50%近くの学生が十分達成できたと評価している細項目数は、7項目であり、5学科の中では、2番目である。

(3) 比較的達成度の低い学習教育目標は、B であり、倫理学に関する科目であった。

### 5. 2 電気電子工学科

(1) 全ての学習教育目標の細項目に関して、90%以上がほぼ達成できたと評価している。あまり達成できていない細項目は、学習教育目標 A-2、D-3、F-1 および G-1 にわずか見られた。ただし、1人のみである。よって、ほとんどの学生が達成できたと考えている。

(2) 十分達成できたと評価した細項目は、B-1、B-2、C-1、D-1、D-2、E-1、F-1、G-1、および G-2 の項目で 50%に近く満足していることが分かる。50%近くの学生が十分達成できたと評価している細項目数は、9項目であり、5学科の中で最も多い。

### 5. 3 電子制御工学科

(1) 全ての学習教育目標の細項目に関して、90%以上がほぼ達成できたと評価している。あまり達成できていない細項目は、学習教育目標 B-1、B-2、F-1、C-2、D-2、および G-1 にわずか見られた。ただし、10%以下である。よって、ほとんどの学生が達成できたと考えている。

(2) 十分達成できたと評価した細項目は、全体的に少ない。ほとんどの項目で 10%~20%の学生が評価している。この評価結果は、5学科の中で最も低い結果であり、達成度評価が低い。

(3) 比較的達成度の低かった学習教育目標は、A と B の細項目であり、十分達成、達成した割合が 70%程度であった。これは、人文科学系の科目である。

### 5. 4 電子情報工学科

(1) 全ての学習教育目標の細項目に関して、95%以上がほぼ達成できたと評価している。あまり達成できていない細項目は、学習教育目標 A-2、B-1、B-2、E-2、および F-2 であり、その学生数は、1人のみである。よって、ほとんどの学生が達成できたと考えている。

(2) 十分達成できたと評価した細項目は、全体的に少なく、20%~30%の学生が評価している。この評価結果は、5学科の中で 2番目に低い結果であり、達成度評価が低い。

### 5. 5 環境都市工学科

(1) 全ての学習教育目標の細項目に関して、90%以上がほぼ達成できたと評価している。あまり達成できていない細項目は、学習教育目標 A-2、B-1、C-1、C-2、D-2、F-1 および G-1 にわずか見られた。ただし、1人である。よって、ほとんどの学生が達成できたと考えている。

(2) 十分達成できたと評価した細項目は、C-1、C-2を除く、全ての項目で30%を超えている。しかし、あまり高い結果とは言えない。

#### 5. 6 総括

学習教育目標のA~Gまでの再項目について達成度評価を確認した。結果として、十分達成できた、達成できた、および、ほぼ達成できたと、ほとんどの学生が評価している。しかし、十分達成できた、達成できた、の割合は、高い学科で約90%近く、低い学科で60%~70%となっており、この割合を高めることが今後の目標と考える。

## 平成 27 年度学生会役員との意見交換会 議事録

学生会担当 渡辺誠一

## 1. 開催日時および場所、参加者

日 時：平成 28 年 3 月 1 日（火） 16:15～17:50

場 所：管理棟 2 階 第 1 会議室

参加者：学生会役員 19 名（正副会長，各係長，新正副会長，他学生会役員）

教職員 9 名（黒田校長，奥村，北山，渡辺，松下，大矢，鬼頭，富岡，二木）

## 2. 出席者あいさつ（自己紹介）

参加した教職員および学生会役員の自己紹介が行われた。

## 3. 学校長あいさつ

今日は意見交換会と言うことで、(テーマは)「学生会の活動のあり方」,「学生会の学校運営のかかわりについて」,「学校行事について」,「その他」と言うことで、今日は私も皆さんに期待して来ました。皆さんもご承知のように、学校は学生が主役です。あなた達が主役です。私達はあなた達が伸び伸びと学生生活をエンジョイしながら、また成長していくことを、我々としては環境を整える、そういう役割だと思っています。

そうは言っても、沢山のいろんな考え方を持った方々がいるし、色んな思い入れがあるので、できたら今の状態を客観的に眺めて、そして何か課題とか問題点があれば、そう言う所を見つけていただいて、一緒に解決していこうと思っています。建設的な課題の発見と解決に向けて努力していきたいと思っています。我々の目線で色々気づいたところを改善しているつもりですが、皆さんの目から見て、こんなところが問題あるよと率直に言っていただければと思います。遠慮なく話してください。是非、楽しみにしています。期待しています。宜しくお願いします。

## 4. 意見交換の概要（司会進行：渡辺 学生主事補）

## (1) 学生会の学校運営へのかかわり方（学校行事，生活指導など）

学生：終業式の担当は学校だと思うが、学生会が主導しても良いのか？学生会が並んで下さいと言って良いのか？高学年は並んでない。

教員：終業式は教務委員会が担当している。学生会で並ばすようなことをしても良いと思う。

教員：自転車のマナー，盗難の防止（財布を置いたまま席を離れる），予防策をとりたい。そう言うことを含めて（学生会と）一緒にやりたい。学生会が出来る範囲でお願いしたい。

学生：他の行事としては避難訓練が考えられる。

教員：縦のつながりを大切にしてもらいたい。そういうことを活かしてもらいたい。

学生：寮生は縦のつながりがあるが，通生のつながりはない。だから学生会に入った。寮生と通生の違いで仕方がない面があるが。寮には留学生がいるので，留学生とコミュニケーションを取れるようになるのは良いと思う。同好会などに参加しない限り留学生とコミュニケーションを取ることができない。

## (2) 学習面（勉強会、学修単位の導入、専攻科への進学）

学生：学生総会の際に一般学生に意見を募ったところ、「寮生は寮で勉強会があるのに、通生は無いのか?」「寮祭にも通生が参加できるようにしてほしい」との要望が出た。

学生：学園だより冬号に「自主研修期間」の記事があった。具体的な内容は?

教員：(自主研修期間の実施については学校側で)少しは例を用意する。5年生は研究を行なう。自分が何を学んだかが大切。自分でこんな事を調べてみたい、体験してみたい、などを自分で計画して行動して、そこで何を学んで発見したか、の内容について評価するというスタンスでいる。課外活動をやっているだけでは単位を付けられない。研究をやったとしたら報告して、プレゼンできれば自主研究になる。まさにアクティブラーニングの一つである。なるべく色々な勉強をしてもらいたいために学修単位を導入した。

学生：今年の前期から学修単位の科目が一気に増えて、レポートが一杯出た。自主勉強をするために空きコマが増えたはずなのに、レポートに忙殺されてしまって、週に5本のレポートが出続けている状態が1ヶ月半位続いて、結局ずっとやり続けた。部活をやっている人もいますし、期日までにレポートを仕上げるといいう日々の中で、結局どこで自主学習する時間を取れば良いのかわからない。レポートが増えただけじゃないかと思う。学科は電気電子工学科です。今まで通年で行われていた授業が半期になり、授業のスピードが2倍になった。授業で取り扱えない内容はレポートとして出された。

教員：学修単位は1単位→2単位、2単位→4単位として、大学と同じ形にすることになる。

学生：どの学科も全体的に(通年の)科目は半期2単位になっている。

教員：たぶん学科によると思う。例えば、大学だったら半期の科目を、演習を入れて倍(通年)にやっている場合もある。それを半期にするためには演習を無くせば良い。構造力学とか水理学、土質力学は、大学では半期でやることを(高専では)1年かけてやっている。そんなに厳しくはない。

学生：倫理学とか(通年から)半期になるのはどう言う事ですか?私の時には通年でした。今年は半期になって、5年生は大丈夫なの?とやっている。

教員：通年やるなら倍の単位にしてほしいと言っている。

学生：大学生の物理の授業も高速授業でやっているのですか?

教員：高専の授業はすごくゆっくり。半分(半期)にしても大丈夫だと思う。

教員：試験問題を見る限りは(高専は)大学と同じ試験をやっているから、その問題が解けていれば単位を与えて良い。

教員：開設単位上、これだけは知って卒業してもらいたいという内容が消化できなくなってしまう。専攻科につなげて学士を得るためには、ある程度の分野の科目数を持っていなければいけない。

教員：時間当たり2倍の単位を与えているはずなので、全体的に言えば167単位で卒業できるので、学修単位導入により取得単位数は増えていく。逆に言うと、取らなくても良い科目が出てくる。けども、設計を失敗すると留年しますよ。卒業できません。これまでは用意したルールの上だけ乗っかっているスタイルで、今後は自分で設計しながら自分で管理しなければいけない。逆に、先生たちが全部教える必要はない。先生は(学生に)力を付けてもらうためのサポートをすれば良い。応用物理は4単位に出来なかったの?

教員：4年の応用物理は半期になった(補足:2科目に分割と回答したが、実際には半期が正しい)。

教員：授業中で演習していた内容が宿題になり、公式使って解く部分に関しては先生が解説しているとしているのではないかと思う。

学生：「自然エネルギー」という科目は?

教員：今までも半期で、(単位数は)1単位から2単位に増加した。昨年度と同じ内容だと思う。

学生：物理がちょっとペースが速い。通年に戻してもらえないか。

学生：なぜ電子制御工学科から専攻科に進学する場合に生産環境システム専攻に限られるのか?電子制御工学科出身の学生は電気電子工学科や電子情報工学科でも研究できれば良い。

教員：学士の設定カリキュラムで決まっている。専攻科から大学院には行きやすい。

### (3) 生活面（寮生と通生とのつながり，下級生と上級生とのつながり，イベント企画）

学生：寮生と通生のつながりがほしい。縦の交流の時間がほしい。通生で部活に入らないとかかわりがない。部活に入っていない人もつながりを持てるようにしてほしい。

学生：全国高専間交流会でも話題が出た。縦のつながりに関して気にしている高専があり，例えば，オリエンテーションに学生会の上級生が同行して交流の場を設けたり，4コマ目に1年生との交流の機会を設けたりするとかが考えられる。泊まりの交流会に上級生が参加しているところもあるようだ。学生会が主催になっても良いので，交流の場がほしいと思います。

教員：過去，文化祭で夜間歩行というイベントがあった。歩いているときに色々話をしていた。

教員：授業時間を割いてイベントを行うのは厳しいが，学生会で何かプラスで出来ると良い。

学生：土日に開催となると通生の参加率が下がる。一日じゃなくてもよいが，午前だけとか，1コマ分だけとかでも使えるとなると企画が出来るのではないかと思う。

教員：1年生の時間割を見ると4コマ目が空いているが。

学生：上級生が埋まっているから企画はできない。1年生だけならできる。

学生：夏休みを1日削って，その分を企画にするのは？

学生：1・2年が3コマで，その上の学年が4コマとなると，下の学年に配って終わってしまい，上級生たちが食べられない。せめて週1日は終了コマを揃えてほしい。水曜日は3コマ終了にしてもらいたい。

### (4) 上級生のホームルーム設置

教員：5年の教室を無くしたいと思っているが。

学生：5年生が研究室に拠点を移すなら，荷物の置き場など研究室を整備してほしい。

教員：今の教室のロッカーを廊下に移せば，5Mは空き時間が増えたので，5Mと5Eで1つ位とか，5年生で2つくらいの教室にして，空き部屋は他の用途に使用すれば良いのでは。

学生：5年生は（教室が）無くてもよい気がします。

教員：5年生は可能だろうが，4年生は難しそう。1年生から3年生がイベントを行うのに5年生だけがかかわれば良いのでは。全部の学年がかかわらなくても良い。

### (5) 通生の勉強会実施

教員：5年生が1年生の勉強を見られれば良い。塾みたいに。この近くに塾はあるのですか。塾は学生を欲しがっている。人に教える体験は勉強になる。

教員：通生だって勉強会をやって良いのでは。5年生が下級生に教えてあげるとか。

学生：進路が決まった学生にやってもらおうとか。

学生：縦のつながりが増えるし，通生の希望に添えるし。

教員：（勉強会を）紹介するのが学生会で，教えたりする人を学生会が集めて良いのでは。

教員：寮ではAランク以外の学生は半強制的に参加してもらっている。

学生：食堂に来てもらって勉強してもらっている。

教員：寮生が通生に寮での勉強会の実情を伝えては。

学生：テスト前にするのは良いかもしれない。学力は上がるし，1人で家に帰ってするくらいだったら，1人ばりばりやっている人が隣にいれば良くなるかもしれない。

### (6) モチベーションの向上策

教員：進学した学生が自主的に講演会をしているが，就職希望の人たちも聞けばためになるのでは。そういう雰囲気が生まれてくるように上手に作ってあげなければいけない。学生会でいろんな楽し



み、クリスマスとか焼き芋大会とか、ハロウィンとか。それはそれで良いけど、もうちょっと貢献できること、下級生の勉強に貢献できることや、学校の中をきれいにしようとか、そういうモチベーションを。学生会は勉強と関係ないのですか？みんな勉強しようぜ、みんな進級しようぜ、長野高専もうちょっと頑張ろうよ、というモチベーションが学生会から出てきたら良い。

学生：影響力を出さなければだめなんだなあ。学生会が。

教員：1年生最初入ってきてモチベーション高いよね？

学生：夏休み長いなあという位で。夏休みが長くてモチベーションが下がってしまった。

教員：常に緊張しているのは難しいと思うのだが、やるときには勉強しようぜ、クラスマッチ頑張ろうぜ、と言うように、上級生が勉強見てあげようか、とか。もちろん先生に質問しに行っても良いけど。何かそういう雰囲気が色んなところから上がってくると活力が出てくるのでは。みんな凄い能力があるけど、使っているのは30%位かな。

教員：工嶺祭を見ていると、本当にあなたたちは企画から運営から、それで後で評価してくれて、次に改善に努めてくれていれば、単位を4単位も5単位もあげたい位だ。凄く大事なスキルを身に付けている。我々もそうだけど、PDCAの感覚を持ちながらやらないと、だらだらしてしまう。その後、ちゃんと振り返る事があるかどうかだ。そう言うことを繰り返すことを覚えていかないと、社会人になったときに企業なんかに行っても使われるだけの人間になってしまう。

学生：言われたことしかしない？

教員：5月は連続して休めるようになるが、始めの5日間でも6日間でもどう過ごすかを計画して、実際にやったことが違ってもいいし、そのままでいいけど、その後どうだったかと考えて。そういうトレーニングをすれば夏休みが計画できるのでは。計画を持って行動したほうがメリハリができる。

## (7) 国際交流（留学生ほか）

教員：留学生との交流で、直接教室に行って体験したことを話してもらおうのは。

教員：みんなの中でもっと留学生と仲良くなりたい、話をしたいという気持ちがあると言う事だね。

学生：留学生は各学科1人だけじゃないですか。5年生は5人だったと思うが、電子制御工学科以外に、電子情報工学科の人と体育が一緒になって仲良くなったんですけど、機械工学科の人は全く知らないのでもったいない気がする。だから、そういう（交流する）機会があれば。どちらかと言うと、ステージ上に立ってもらって話すと完全に受身になってしまうので。

教員：壁を作らないことだ。一言二言でもいいけど、その彼と話したいと思ったら、彼のことを知って、どんな国なのか、その国の言葉を1つでも2つでも覚えて話しかけたら全然違う。友達になって一生の財産になる。

学生：私は学校（が主催）の海外研修に行った。（現地で）3名ほど友人が出来た。

教員：お金がかかる話なのでなかなか出来ないが、身近でやろうという気持ちさえあればできる。市内に外国人がいっぱいいる。その人たちと交流会をやってはどうか。

学生：もしやるとすれば国際交流同好会が？

教員：もしやるとすれば、こっち（呼ぶ学校の方で）でやることを考えておかないと。

学生：文化祭でJICA（国際協力機構）のイベントがあったように。

教員：同好会や長野市の国際交流の団体と連携すれば、外国の方とコミュニケーションを取ることができる。色んなところにつながりができる。ホームステイできるようになる。強制的に参加してもらって初めて楽しみがわかるようになる。

学生：1年生が一番良いのかも。

## (8) 低学年からのキャリア教育の実施

教員：1年生でキャリア教育をやっていききたい。OBの人や企業の人とやりたいと思っている。1年生は将来のイメージをどこで作っているのか？

学生：学校のイメージはパンフレットや、たまに担任の先生がHRとかに教えてもらったりしてイメージしている。研究とかはわからない。今回学園だよりで研究室名が並んでいたけど、名前だけ載っていてもどういう研究なのか伝わってこなくて。私は電子情報工学科ですけど、こう言うのをやってみたいということをイメージできなかった。

教員：1年生がテーマに興味を持ったら、実際に研究室に言って話を聞けると良い。企業の一覧表を見てもわからない。どんな先輩がどんな仕事をしているかわからない。知りたいと思いませんか？

学生：代表例でも。

教員：学生会とうまくやれるかわからないけど、OBの同窓会とか。

## (9) 今後の意見交換会の実施

学生：このような話し合いの機会を増やしていただけないでしょうか。(この会は)結構大切な会ですけど、絶対に時間が足りない。学校行事とか自転車についてもっと話したかった。

教員：定期的にできればやっていきたい。

## 5. まとめ(奥村学生主事)

皆さん、お疲れ様でした。去年は(意見交換を)紙でやりました。今年は(開催)時期が遅くなりましたが、こうやって話してみると、校長先生の人柄ってわかるよね。やはりフェイス to フェイスなんだけど、(話すことは)とても大事な機会だと思います。5年生も卒業間近ですけど来てくれて有り難いと思う。さっき定期的に(開催を)という話があり、校長先生もOKと言う話です。学校は学校側と学生と力を合わせないと動いていけませんよね。だから、是非、そういう意味では協働、ともに協力する、あるいは働くと言う意味で、是非お願いしたいと思います。28年度はさらに学生会が盛り上がるように、よろしく願います。今日は有難うございました。

## 所 感

- ・ 学生会の終業式など式典へのかかわり方、国際交流企画など意見が出てきて良かった。
- ・ 新教育課程について、特に4年生に対して変更目的や趣旨などが伝わっていない感じがした。学修単位の導入に関して学生は不満を持っているようで、理解してもらうために教務委員会を中心に学生に対して丁寧に説明する必要があると感じた。
- ・ 通生向けの勉強会、国際交流企画などアイデアが出てきて良かった。是非学生会で検討してもらいたい。
- ・ 1年生からモチベーションや卒業後のイメージなどの話が聞けて良かった。
- ・ 時間の関係で議論されなかったが、4年生は工嶺祭に関する意見を出したかったようであった。学校側と工嶺祭実行委員会側との意見交換は行われているが、一般学生には学校側の意図が伝わっていない感じだった。
- ・ 意見交換会終了後、学生課長から「次回は事務部への要望を聞いてみたい」との意見があった。また、新学生会長から「低学年におけるアルバイト実施について緩和してほしい」との要望があった。

平成 28 年 3 月 14 日  
意見交換会担当 轟

## 平成 27 年度 専攻科意見交換会報告書

### 1. 開催目的

在学学生と教育・研究環境、専攻科カリキュラム等に関して意見交換を行うことで、今後の教育改善に役立てることを目的とする。

### 2. 開催日時・場所

平成 28 年 2 月 17 日 (水) 14:30~16:00

視聴覚室 (図書館 2 階)

### 3. 出席者

教職員：専攻科長、専攻長および専攻科運営委員

学 生：1 年生 (全 27 名中 26 名)、2 年生 (全 29 名中 24 名) 合計 50 名

### 4. 意見交換内容

#### 1) 開会挨拶【専攻科長】

#### 2) 意見交換

学校教育に関する全般

(1) アンケートについて (集計結果の提示と質疑応答および回答)

(2) 教育カリキュラムおよび教育・研究環境について意見交換

(3) 学校行事等その他について意見交換

#### 3) 閉会挨拶【専攻科長】

### 5. 専攻科生からの要望

#### (1) 研究

・研究したくても時間の制約があり、十分な研究ができないことがある。共用室についても利用していたら警備員に注意されたことがあった。

(回答) 本校の施設使用のルールとして、平日の 17 時以降や休日は施設使用願の提出が必要。

(課題・検討) 専攻科棟共用室利用時間の明確化。

・ポスター発表会の日程が文化祭の屋台準備や夜祭と重なったため、日程を再考してほしい。

(回答) 日程等を検討していく。

(課題・検討) 工嶺祭期間外も含め、次年度の開催時期を検討する。

## (2) 施設および設備

- ・共用室内のプリンタがうまく PC と繋がっておらず、十分な機能を発揮できない状況である。

(回答) 早急に確認する。

(課題・検討) どのような問題があるのか確認し、必要に応じて対応をする。

- ・冬季の教室や研究室が寒い。

(回答) 現状、暖房は 19℃設定となっており、土日は稼働しないルールとなっている。早急に本ルールを改定することは難しいことから、各自対応をお願いしたい。

(課題・検討) 暖房設定温度や土日における稼働について施設専門部会に要請できないか。専攻科棟は、常に多くの学生がいるわけではないので特に寒いように感じる。

## (3) 講義

- ・休講・補講の連絡手段の改善してほしい。本科学生玄関などにも掲示してほしい。

(回答) 現状、専攻科棟にて掲示をしている。また、携帯サイトにて公開している。

(課題・検討) 学生玄関での掲示について教務係に依頼。

- ・輪講時の印刷物の多さ。配られても予習しない。

(回答) 学生に学習してもらおう意味で紙にしている。今後、電子データ化など検討したい。

(課題・検討) Blackbord などを活用できないか検討。

- ・機能デザインのレポート提出方式がグループ単位なので、一定学生への負担が大きい。

(回答) 今後、改善できるよう検討。

(課題・検討) 個人単位での提出など、検討できることはないか。

## (4) 進路

- ・進路に関する学校側の準備が遅い。推薦書類に関する説明についてももっと早くあるべき。また、3月の時点で進路に関するフローを知っておきたい。

(回答) 2016 年に関しては、3 月からエントリーも始まることから、早急に改善していく。

(課題・検討) 現 1 年生に対して進路がこれから本格化するが、推薦等々の進め方について周知ができていないか。

- ・面接やエントリーシートに関する指導について以前のような専門の先生がいると良い。

(回答) 予算の都合で、常時進路指導の先生を置くことは難しい。ただ、エントリーシート添削のシステムがあるので、それを利活用してほしい。また、専門の学科の先生を活用してほしい。

(課題・検討) 専門のアドバイザー等からアドバイスを得られる機会を創出できないか。

- ・大学院の説明会を実施してほしい。

(回答) 今年度、大学院の説明会も実施している。

(課題・検討) 次年度以降も継続的に説明会が実施できる仕組みづくり。

- ・進路に限らず、連絡が遅い。

(回答) 諸連絡のスムーズな伝達ができるよう対応していく。

(課題・検討) 連絡体制など年度当初の段階で学生に周知していく。

以上

## 第11回長野工業高等専門学校参与会概要

## ➤ 日時

平成26年7月7日（月） 13:30～16:05

## ➤ 場所

長野高専第一会議室

## ➤ テーマ

長野高専の中期ビジョンについて

## ➤ 出席者

&lt;参与 7名&gt; 【敬称略】

- ・大石 修治 信州大学工学部長
- ・上原 卓 長野県産業労働部ものづくり振興課長
- ・近藤 守 長野市教育委員会 教育委員長
- ・小根山 克雄 信越放送株式会社 代表取締役社長
- ・中村 天昭 長野工業高等専門学校同窓会長
- ・塚田 牧子 長野工業高等専門学校後援会
- ・堀井 正子 文学研究者

## ※欠席

- ・池田 明 長野高専技術振興会会長・(株)ミマキエンジニアリング代表取締役会長
- ・水本 正俊 社団法人長野県経営者協会専務理事

## ※陪席

- ・豊田 敦至 長野県産業労働部ものづくり振興課

&lt;本校関係者 24名&gt;

- ・黒田校長
- ・小澤副校長（総務主事），戸谷副校長（教務主事），内山副校長（学生主事），永藤副校長（寮務主事），長坂副校長（専攻科長），押田副校長（研究・地域連携担当）/地域共同テクノセンター長
- ・羽田機械工学科長，大澤電気電子工学科長，小野電子制御工学科長/技術教育センター長，楡井電子情報工学科長/情報教育センター長，遠藤環境都市工学科長，奥村一般科学科長/図書館長
- ・星事務部長，須磨総務課長，石田学生課長

## ※陪席

- ・板屋一般科副学科長
- ・鈴木第三者評価対応委員会副委員長
- ・和田技術支援部技術長
- ・富岡課長補佐（総務），清水課長補佐（財務），米持学生課長補佐
- ・諏訪総務係長，宮坂総務係員

➤ 次第

1. 開会

1) 校長あいさつ

2) 会長・副会長紹介 (※)

・会長：大石修治 信州大学工学部長

・副会長：中村天昭 長野工業高等専門学校同窓会長

※ 正副会長については、前回 (H25.2.4) の参与会時、校長指名に基づき、H24.10.1～H26.9.30 の参与委  
嘱期間中、正副会長への就任を依頼済

3) 自己紹介 (本校関係者 → 参与)

4) 配付資料確認

2. 参与会 【テーマ：長野高専の中期ビジョンについて】

1) 高専機構の中期ビジョンについて

2) 高専機構の第3期中期目標・中期計画及び平成26年度計画について

3) 長野高専の中期ビジョンについて

～ 休憩 ～

4) 質疑応答・意見交換

5) 閉会 (校長あいさつ)

➤ 配付資料

① 「今後の国立高専機構・中期ビジョンについて」(A4版)

② 高専機構 第3期中期目標、第3期中期計画、26年度計画 (ワード様式)

③ 長野高専中期ビジョン (高専機構ビジョンとの対比様式) &用語集 (A3版)

④ 長野高専 26年度計画 (ワード様式)

⑤ 高専機構第3期中期目標・中期計画、高専機構26年度計画及び長野高専26年度計画  
(対比様式)

○ 学校要覧2014年版

○ 入学案内2015年版

○ 産学連携研究シーズ一覧2014

○ 地域共同テクノセンター報告書 (平成25年度)

○ 創立50周年記念事業実施報告書

## 議事概要

### 1. 開会

総務課長の進行により開会された。

### 2. 校長あいさつ

黒田校長から、以下のとおり挨拶があった。

- ・本校は、昨年度 50 周年を迎え、今年度より新たな半世紀を迎えた。
- ・高専機構として、今年度より 5 か年間、第 3 期の中期目標・中期計画期間に入ったこと。
- ・これに伴い、本年 3 月、高専機構の理事長から全高専に「今後の国立高専機構・中期ビジョン」が示された。
- ・長野県においては、新入生となる 15 歳児が今後 10 年間で 15%減少する見込みの中で、5 年間あるいは専攻科を含めた 7 年間の一環教育ができる高専の特性をいかに進化させるかが課題である。
- ・本校に入学したことで、一番付けてもらいたい力は、志を持って社会において自立すること、グローバルに活躍できること、である。
- ・以上を踏まえつつ、今回、高専機構から示されたビジョンに対応するかたちで、本校におけるビジョン実現の施策を立案したので、これらに対する忌憚のないご意見をいただきたい。

### 3. 会長・副会長指名

須磨総務課長から、平成 25 年 2 月 4 日に開催された第 10 回参与会において、校長から、平成 24 年 10 月 1 日から平成 26 年 9 月 30 日までの間について、会長に大石修治 信州大学工学部長を、また、副会長に中村天昭 本校同窓会会長を指名している旨の説明があり、引き続き就任の依頼があつた。

### 4. 自己紹介

本校出席者及び参与から自己紹介があった。

### 5. 配付資料確認

進行から、配付資料の確認があった。

### 6. 議事

#### 1) 高専機構の中期ビジョンについて

#### 2) 高専機構の第 3 期中期目標・中期計画及び平成 26 年度計画について

黒田校長から、【資料①】に基づき、高専機構の中期ビジョンの概要について説明があった。  
また、【資料②】に基づき、機構の第 3 期中期計画・中期目標及び平成 26 年度計画のうち、とくに中期ビジョンに関連する事項について、補足説明があった。

#### 3) 長野高専の中期ビジョンについて

黒田校長及び各副校長から、【資料③】に基づき、本校における中期ビジョン及びビジョン実現のための施策等について詳細な説明があった。

#### 4) 質疑応答・意見交換

上記 1) ～3) の説明の内容に関して、以下の概要のとおり質疑応答・意見交換が行われた。

大石参与：アクティブ・ラーニングについて、ゆとり教育との関連も含めて説明願いたい。

戸谷副校長：基礎学力がないと現場においては付け焼刃になる。1 年生の数学などは、「演習」時間が足りていないと認識しており、機構のビジョンのとおり、授業を 9 割にして、残りは

家庭などで自ら勉強する、また、授業の中にも e ラーニングを使った演習を取り入れて実現していきたい。

校長： 設置基準上、高専は 167 単位で卒業できるところ、本校は 170 単位必修となっているおり、学生にとってはすでに用意されて状況にある。

ついては、コアの科目はしっかり履修させながら、一方で個々の学生が興味ある科目を履修できるようにし、自ら卒業単位を整えるシステムとしたい。

4・5 年生の科目は大学に編入した際に大学での必要な科目とのマッチングも問題になるので、学修単位により対応していく。

近藤参与： アクティブ・ラーニングに関して、義務教育においても問題解決型学習や体験学習を取り入れる研究を進めている。そのために、信大とは包括協定を締結させていただいているが、今後は、大学や高専の先生からも意見を伺っていきたい。

このカリキュラムを 51 高専統一的作っていくとなると、各高専の特色づくりが難しくなるのではないかと。長野高専らしさをいかに組み立てるのか伺いたい。

留学生について、貧困国からの留学生に対する奨学金のシステムは持っておられるか。

また、海外留学はどのような状況か。

戸谷副校長： モデルコアカリキュラムは 167 単位のごく一部であり、それ以外のところで高専毎の特徴を出してくださいというのが高専機構の方針である。

本校としては、「イノベーション」と「グローバル化」を特徴としたい。

高専機構から、各高専におけるポートフォリオの作成を求められている。本校では国際交流を推進していること、技術振興会を活用した 4 年生全員のインターンシップ、3 か月間の海外派遣をおこなっていることを特色としたい。

小澤副校長： 国費とマレーシア派遣の留学生は十分な奨学金が支給されるが、私費の留学生については学生支援機構から援助があるが、少額のため、生活費をアルバイトにより賄っている。

留学については、本校を休学することとなる。単位互換の制度は整備されていない状況である。

上原参与： 学生にとってきめ細かな配慮がなされたビジョンと施策である。

県内企業では、技術系の新卒者を採用したくてもなかなか来てくれないところが多いが、卒業生の進路はどのような状況か。

内山副校長： 学校要覧 2014 年版を参照願いたい。

ご指摘のように本科においては、最近では県外就職が多くなっている。

また、26 年度 6 月末時点の状況は次のとおりである。

- ・5 年生・・・198 名
- ・就職希望者・・・89 名・44.7% (昨年度微増)
- ・進学希望者・・・109 名・54.8%
- ・就職内々定者・・・77% (昨年度 70%)
- ・大学編入と専攻科合格者・・・48 名

上原参与： 県のものづくり産業を振興している立場からは、県内中小企業の中にもニッチな分野で世界的にも非常にレベルが高い企業もあるので、より多くの方に県内に就職してもらいたい。

インターンシップ先はどちらへ、どのくらいの期間、行かれているのか。



戸谷副校長： 本科については4年生200人がほぼ全員行っている。期間は夏休みの1週間から2週間である。

さらに、企業からもう少しの期間いて欲しい、学生からはもう少し勉強・研究したいという場合もあり、その場合は、別に「企業書生制度」があり、休み明け後放課後を活用して、長期に業務を行う仕組みがある。

また、インターンシップ事業として、ただ単に行かせるだけでなく、年4回、インターシップの方法等の説明会、5年生による前年度の経験報告会、4年生による報告会、受入企業による指導報告会を行い、学生だけでなく企業にもインターンシップに関心を持ってもらっている。

上原参与： 学生の研究内容と企業の事業内容との「マッチング」という意味では、インターシップは非常に有効な手段である。対象企業は固定化せず、経営者協会、県の人材育成課を活用していただき、多くの県内企業に出向いて欲しい。また、期間や対象学年を広げてみることも検討して欲しい。

上原参与： 高専が所有している分析機器等は県内企業が使うことはできるのか。

黒田校長： 技術振興会の会員になり、教員との共同研究で使っていただければ、無料となり有効に使っていただける。

また、就職の件について、同窓会の調査によれば、卒業生の6から7割が県内企業に戻ってきている。

これは、大学進学後に県内に戻ってくることもあるし、県内の大きな企業では東京に事業所を持っていることもあるし、「県外就職」のデータはこの辺を反映していないことは了解いただきたい。

中村参与： 一例としてセイコーエプソンにおいては、高専卒後、直に就職する学生数は少ないが、いったん大学に進学した後、同社に就職する数は200から300となる。このような例は1部、2部に上場して企業に傾向が強い。

小根山参与： 卒業生はできるだけ地元の企業に就職していただくことが、長野高専の存在意義と考えている。

できるだけ多くの県内企業に技術振興会に加入してもらい、インターンシップを通じて加入企業に就職してもらいたい。

法人化後、高専はそれぞれ学校運営の手腕が問われる中、長野高専のビジョンの一つに「外部資金を継続的に獲得していく」とあるが、具体策をお聞きしたい。

また、少子化や新幹線延伸といった環境の中で、学生の奪い合いが想像されるが、長野高専の特徴をいかに出していくのか。

さらに、海外インターシップ学生への資金援助の状況をお聞きしたい。

押田副校長： 技術振興会は現在約250の団体に会員になっていただいている。会員となる一番の目的は、学生に就職してもらいたいためと認識している。

一方で、高専から直に就職する数は、専攻科を含めて100人程度ということで、会員の要望に十分に答えられていないことは、本校としての今後の課題である。

企業の方には少し長い目でみていただきたい。

黒田校長： 本校の最大の特色は、多くの企業が技術振興会会員になっていただいていること。

それに対するサービスとして、地域共同テクノセンターにおいて、会員のニーズをくみ取りながら、社員のリカレント教育や公開講座を展開している。その中で受講者の発表の場を設け、それを聴いた学生や教員との間で研究のマッチングが生まれ、学生はその企業に興味を持つ、教員は共同研究に発展させることができると思われる。皆様からも、いろいろなアイデアをいただきたい。

次に外部資金については、5年後には1億円以上としたい。まず、科学研究費補助金の獲得を増やしたい。また、技術振興会会員との共同研究も増やしたい。各教員の研究テーマが、1件以上の共同研究に結び付きことが高専のあるべき姿と思っている。

戸谷副校長：海外インターンシップは、基本的には自己負担。経費面で、また日本企業が多く進出している東南アジアがインターンシップ先となる。

一部後援会から補助をいただいているおり、自己負担が一桁台に抑えたい。

なお、今年度は、日本学生支援機構の奨学金を6人分獲得できた。

黒田校長：教員の在外研究と結びつけながら、東南アジアのインフラ未整備な状況を見てくることもと有益である。

今後は、欧米も視野に入りたい。また、教員の在外研究をきっかけに、先方の機関との教員・学生の人的交流を図りたい。

中村参与：ビジョンに掲げている「イノベーション」と「グローバルイノベーション」は、企業の抱えている課題と同じある。

地域共同テクノセンターのキャッチフレーズ「地域の中小企業と共に」を改めて念頭においていただき、技術振興会会員のニーズや要望により一層応えていただけるようお願いする。

塚田参与：高専卒の女の子も2人を就職させた経験上、企業は女子についても非常に高く評価しており継続して採用するようになったこと、また、入社後もOBから何かと面倒をみてもらっており、高専を通じた強い仲間意識を感じる事ができた。

堀井参与：中期ビジョンとその施策を聴かせていただき、丁寧に学生を育てようとされている様子が伺えた。

但し、基礎力から応用力までその知識を学んでもやはりその内容は古びてしまう。それよりも社会に出てから、いつの時代やどんな状況でも方向性を与えてくれる、学ぶ方法論というものがより重要と思えるが、それをいかに身に付けさせるかといった視点が見えにくかった。

黒田校長：アクティブ・ラーニングこそがその対応策であると思う。ベース的な知識はどうしても身につけてもらわないといけない。だが、4、5年生に対しては、指導教員がアクティブに研究に取り組んでいる姿をみせることができれば、自ずと学ぶ方法といった視点が身に付くと期待している。

## 7. 閉会

閉会にあたり、校長から謝辞が述べられ、議長により閉会が宣言された。

以上

平成27年度 第1回FD研修会 講演資料

資料は、グループウェアに掲載されている。

The screenshot shows the university's groupware portal. At the top, there is a navigation bar with various icons and a search bar. Below this, there are several menu items, with "研究支援 産学連携" (Research Support Industry-Academia Cooperation) highlighted in a red box. The main content area is divided into several sections:

- 間接経費収支状況** (Indirect Cost Income/Expense Status): A table listing fiscal years from Heisei 23 to Heisei 27, with update dates.
- 外部資金獲得状況** (External Fund Acquisition Status): A section with a note that the information is updated monthly. It contains three sub-tables:
  - 採択状況 平成27年度 - (平成27年度)**: Lists "共同研究・委託研究・補助金", "寄附金", and "科学研究費助成事業".
  - 採択状況 平成26年度 - (平成26年度)**: Lists "科学研究費助成事業" and "寄附金".
  - 採択状況 平成25年度 - (平成25年度)**: Lists "科学研究費助成事業" and "寄附金".
- 科研費FAQ - (FAQ)**: A list of frequently asked questions regarding research fees.
- 科研費採択のコンセナー資料** (Research Fee Awarded Consensus Materials): A table listing PDF documents for the Heisei 27 research fee seminar, including "1. 科研費獲得の方法とコツ.pdf" (6,063 KB), "2. 申請書の見本(改良前).pdf" (586 KB), and "3. 改良した申請書.pdf" (751 KB). This table is highlighted with a red box.
- 科研費マニュアル** (Research Fee Manual): A section for the Heisei 28 research fee awarding manual.

ファイル管理からも直接リンクできる

The screenshot shows the university's file management system. The top navigation bar includes "ファイル管理(ルート)" (File Management (Root)) and "研究支援委員会" (Research Support Committee). The main content area shows a directory tree on the left and a list of files on the right.

The directory tree on the left includes:

- 各種様式
- 規則集
- 高専機構的ハンドブック
- マニュアル
- 科学研究費補助金関係のデータ
- 教員フォルダ
- 事務部フォルダ
- 技術室フォルダ
- 校務分掌
  - JABEE
  - 2013.JABEE中間審査
  - 2016.JABEE継続審査
  - 認証評価
  - 認証評価★提出版
  - 教育改善委員会
  - 第三者評価対応委員会
  - 研究支援委員会
    - 研究発表会等における同意書
    - 知的財産ハンドブック
    - 平成27年度第1回FD研修会資料
  - 地域共同テクノセンター
- チェックシート

The file list on the right shows three PDF files:

タイトル	ファイル名	更新者	更新日時
1. 科研費獲得の方法とコツ.pdf	1. 科研費獲得の方法とコツ.pdf	金井 隆英	2015年06月10日
2. 申請書の見本(改良前).pdf	2. 申請書の見本(改良前).pdf	金井 隆英	2015年06月10日
3. 改良した申請書.pdf	3. 改良した申請書.pdf	金井 隆英	2015年06月10日

## 平成 27 年度 第 1 回教育改善委員会議事概要

日 時：平成 27 年 5 月 18 日（月） 16：15～17：00

場 所：第 2 会議室

出席者：委員長 鈴木宏

副委員長 堀内富雄

委員 羽田 喜昭，大矢 健一，古本 吉倫，内山 了治，山崎 健一，学生課長

## 議 題

1. 平成 27 年度業務分担について (資料 No. 1)  
委員長から、資料 No. 1 に基づき今年度の活動方針と業務分担について説明があり、審議の結果、承認された。
2. 平成 26 年度教育改善報告書について (資料 No. 2)  
委員長から、資料 No. 2 に基づき担当者とスケジュールについて説明があり、審議の結果、承認された。
3. 平成 27 年度のエビデンス収集・保管について (資料 No. 3)  
大矢委員から、資料 No. 3 に基づき基本的に昨年度と同様である旨の説明があり、審議の結果、承認された。また、エビデンスの表紙について今後検討することとした。
4. 第 1 回 FD 研修会について  
委員長から、執行会議メンバーからの要請に基づきテーマが決定した FD 研修会  
日 時：平成 27 年 6 月 10 日（水）15:00～16:30  
講 師：久留米大学分子生命研科学研究所 教授 児島 将康 氏  
講演題目：「科研費獲得の方法とコツ」  
について説明があった  
続いて、研修会の運営分担について、次のとおり依頼があり、了承された。
  - ・企画（研修会司会）：内山委員
  - ・記録・アンケート・報告書作成：古本委員
5. その他  
なし。

## 平成27年度 第2回教育改善委員会議事概要

日 時 平成27年7月27日（月） 11時00分～11時35分

場 所 応接室

出席者 委員長 鈴木 宏

副委員長 堀内 富雄

委員 羽田喜昭, 古本吉倫, 内山了治, 山崎健一, 学生課長

### 【議 題】

#### 1. 授業改善システムについて

委員長から、各教員が行っている授業に係るPDCAサイクルに対する委員によるチェック方法について、〔資料1〕により説明があった。

続いて、次回の委員会（9月又は11月）までにチェックと提言を紙ベースにてまとめるよう依頼があり、了承された。

#### 2. 第2回 FD研修会について

委員長から、〔資料2〕により、執行会議メンバーからの要請に基づきテーマが決定したFD研修会の日程等について説明があった

続いて、研修会の運営分担について、次のとおり依頼があり、了承された。

- ・企画（研修会司会）・・・羽田委員
- ・記録・・・山崎委員

#### 3. その他

### 【報告事項】

○ 委員長から、今年度の教育改善委員会の取組事項の進捗状況について報告があった。

○ 委員長から、メール目安箱へ学生から寄せられた意見等の紹介と対応状況について報告があった

## 平成27年度 第3回教育改善委員会議事概要

日 時 平成27年11月12日（木） 16時15分～16時55分

場 所 応接室

出席者 委員長 鈴木 宏

副委員長 堀内 富雄

委員 羽田 喜昭, 内山 了治, 山崎 健一, 学生課長

### 【議 題】

#### 1. 第2回 FD研修会 実施報告 について

山崎委員から、資料1に基づき説明があった後、委員長から本件に関する意見がある場合は、今月中に委員長又は山崎委員に提出するように依頼があった。

また、委員長から、平成28年度からアクティブラーニング推進室が設置される見込みであるとの報告があった。

#### 2. 第3回 FD研修会 開催について

委員長から、資料2により説明があった後、当日は卒業生のアンケートに基づき講演があるとの補足説明があった。

また、研修会の運営分担について、次のとおり説明があり、了承された。

- ・司会・・・小澤副校長又は鈴木委員長
- ・記録・・・羽田委員

#### 3. エビデンスの収集方法について

委員長から、現在ボーダーライン（60点）以上を4点としていることについて、その根拠を示してほしいとの意見が寄せられていることの報告があった。

このことについて、意見交換の結果、審査の場合には4点が必要なため、原則60点以上を4点として行うこととした。

#### 4. 教育改善資料室の利用について

委員長から、校長より短時間雇用教員の居室として、2階の教育改善資料室の部屋を充てることについて問い合わせがきているとの報告があった。

このことについて、意見交換を行い、次の検討課題が出され、ワーキンググループの委員と相談することとなった。

- ・文書は原則5年間保存のため、5年を経過したものは廃棄することになっているが、過去の受審時の資料を廃棄することは難しいこと。
- ・ノートパソコンに保管されている電子データのうち、エビデンス資料と過去の

受審資料は保管が必要であること。

- ・紙ベースのもので、学科で保管するものを決める。

## 【報告事項】

### 1. 授業改善システムについて

委員長から、12月中にやっていただき、来年早々に委員長に提出願いたいとの依頼があった。

### 2. 平成27年度前期期末試験問題等のレベルの保証確認について

委員長から、確認シートを年内に提出していただきたいとの依頼があった。

### 3. 今後の検討事項について

委員長から、今後の検討事項について次のとおり説明があった。(かっこ内は担当者)

- ・第Ⅱ期中期目標・計画の点検（鈴木）  
現時点ではペンディングとする
- ・授業改善システムの評価と点検（鈴木）  
12月までに実施していただき、感想を連絡いただきたい。
- ・学習・教育目標の達成度に関する調査の点検（羽田）  
現在教務委員会で動いていないため、教務委員会に確認する。
- ・自己評価シートに関する改善方法の点検（羽田）  
現在教務委員会で動いていないため、教務委員会に確認する。
- ・平成26年度参与会で出された改善点の整理（内山）  
平成27年度は平成28年2月に実施予定
- ・卒業生・企業向けアンケート調査結果からの改善点を検討し改善点の依頼（堀内）  
委員長と堀内委員が相談する。
- ・実施済研修会の効果の点検およびその改善（古本）  
現在はFD研修会を実施ごとにアンケートを実施している。  
委員長と古本委員が相談する。
- ・学生との意見交換会の点検（山崎）  
例年専攻科は2月に実施している。  
委員長と山崎委員が相談する。

以上

## 平成27年度 第4回教育改善委員会議事概要

日時 平成28年1月26日(火) 16時15分～17時

場所 管理・一般校舎棟2階 第2会議室

出席者 委員長 鈴木 宏

副委員長 堀内 富雄

委員 羽田 喜昭, 大矢 健一, 古本 吉倫, 内山 了治, 山崎 健一, 学生課長

### 【議題】

#### 1. 教育改善報告書の作成について

【資料No.1】

委員長から、資料No.1に基づき、教育改善報告書の作成に際しての分担を決定した旨説明があった。続いて、委員長から、内容については個別に委員長が相談させていただくこと、また、執筆にあたり次のファイルを参考願いたいとの説明があった。

グループウェア(トップページ) → 教育改善報告(タブ)

平成22年度から平成26年度までの教育改善報告書(pdf)

グループウェア → ファイル管理 → 校務分掌 → 教育改善委員会

平成23年度～平成26年度教育改善報告書の中のワードファイル

#### 2. 教育改善資料室の明け渡し(一般棟2F、西の端)について

委員長から、執行会議より資料室を再雇用の先生の居室に利用したいとの要望が出ている旨の報告及びこれに伴い、資料室の中にあるエビデンスを整理する必要があるとの説明があった。続いて、委員長から、書類の処分方法、見積金額等について説明があった後、協議の結果、次のとおり書類等を整理することを確認した。

- ・資料室の中にある棚は、平成28年度に行われるJABEE審査への対応のため1つ残し、他は希望者に引き渡すこと。
- ・2月22日までにチューブファイルから資料を取り外し、平成23年度以降5年間の資料を抽出すること。(科目毎に確認する。)

#### 3. 平成27年度 第3回FD研修会実施結果報告について

【資料No.2】

羽田委員から、資料No.2に基づき、平成27年12月4日(金)に開催した第3回FD研修会の実施内容及びアンケート集計結果について報告があった。

### 【確認事項】

#### 1. 平成27年度前期期末試験問題等のレベルの保証確認

委員長から、平成27年度前期期末試験問題等のレベルの保証確認の提出状況について報告があり、未提出の一般科に対して提出依頼があった。

#### 2. 授業改善システムについて

委員長から、授業改善システムについて、平成26年度分を平成25年度分を参考に作成していただき、できれば3月中に提出いただきたいとの依頼があった。

#### 3. その他

教育改善委員会ワーキンググループの大矢リーダーから、平成26年度のエビデンスがそろっていない学科があるので、早急に対応願いたいとの依頼があった。

以上



平成27年度 第5回教育改善委員会

日 時 平成28年3月30日(火) 10時～11時5分

場 所 管理・一般校舎棟2階 第2会議室

出席者 委員長 鈴木 宏

副委員長 堀内 富雄

委員 羽田 喜昭, 大矢 健一, 古本 吉倫, 内山 了治, 山崎 健一

議 題

1. 教育改善報告書について

【資料No.1】

委員長から、資料No.1に基づき、教育改善報告書の構成について説明があった。

続いて、各委員から担当委員会、担当項目等について現在の状況説明があり、担当項目のうち修正点があるものは修正の上で委員長に送付することとした。

2. 今年度の反省点

特に意見が出されなかった。

報 告

1. 授業改善システムについて

委員長から、授業改善システムについて、平成26年度分を平成25年度分を参考に作成するとの説明があった。

2. 試験問題等のレベルの保証確認について

学生課の中村課長補佐から、前期及び後期の確認シートの提出状況について報告があり、これを確認した。

3. メール目安箱の対応

委員長から、メール目安箱への送付状況について報告があった。

以上